

CONTENTS

主教材としての活用

(1) 正直、誠実【小学校 1 年】	1
(2) 家族愛、家庭生活の充実【小学校 1 年】	3
(3) 正直、誠実【小学校 1 年】	5
(4) 家族愛、家庭生活の充実【小学校 2 年】	7
(5) 感謝【小学校 2 年】	9
(6) 家族愛、家庭生活の充実【小学校 2 年】	1 1
(7) 正直、誠実【小学校 3 年】	1 3
(8) 希望と勇気、努力と強い意志【小学校 3 年】	1 5
(9) 勤労、公共の精神【小学校 4 年】	1 7
(10) 生命の尊さ・感謝【小学校 4 年】	1 9
(11) 希望と勇気、努力と強い意志【小学校 4 年】	2 1
(12) 希望と勇気、努力と強い意志【小学校 3、4 年】	2 3
(13) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度【小学校 5 年】	2 5
(14) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度【小学校 5 年】	2 7
(15) 希望と勇気、努力と強い意志【小学校 5 年】	2 9
(16) 生命の尊さ【小学校 6 年】	3 1
(17) 生命の尊さ【中学校 1 年】	3 3
(18) 生命の尊さ・よりよく生きる喜び【中学校 1 年】	3 5
(19) 向上心、個性の伸長【中学校 1 年】	3 7
(20) 希望と勇気、克己と強い意志【中学校 1 年】	3 9
(21) 向上心、個性の伸長【中学校 2 年】	4 1
(22) 希望と勇気、克己と強い意志【中学校 2 年】	4 3
(23) 思いやり、感謝【中学校 2 年】	4 5
(24) 生命の尊さ・よりよく生きる喜び【中学校 2 年】	4 7
(25) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度【中学校 2 年】	4 9

(26) 希望と勇気、克己と強い意志【中学校 2 年】	5 1
(27) 生命の尊さ【中学校 3 年】	5 3
(28) 生命の尊さ【中学校 3 年】	5 5

副教材としての活用

(29) 感謝【小学校 2 年】佐賀小 野村和彦	5 7
(30) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度【小学校 4 年】	5 9
(31) 希望と勇気、努力と強い意志【小学校 4 年】	6 1
(32) 生命の尊さ【小学校 6 年】	6 3
(33) 節度、節制【中学校 3 年】	6 5
(34) よりよく生きる喜び【中学校 3 年】	6 7

本事例集は、平成 29 年度「やまぐちっ子の心を育む道徳教育」プロジェクトにおいて、推進校の研究を支援するための「研究サポート委員」の先生方が実践した事例集です。

平成 27 年 12 月に山口県教育委員会が作成した「いのち・夢・ふるさとを大切に作る心を育む学習プログラム みんなちがってみんないい第Ⅱ集」を教材として、あるいは、授業づくりの参考として活用した授業事例です。

「みんなちがってみんないい第Ⅱ集」を年間指導計画に位置付けた際の授業づくりの参考として活用していただきますようお願いします。

なお、事例の中に教材の写真等が掲載されている部分は、著作権の関係上表示することができませんので、各学校に配付している資料をお使いください。

また、道徳科の授業では、一つの型だけで授業を行うのではなく、効果的な指導方法を組み合わせることが求められていることから、本事例集の一つの指導方法だけを推奨するものではありません。

道徳の時間で活用する
～正直、誠実～

1 本授業におけるポイント

- 役割演技を取り入れることで、正直に謝った利助の気持ちを全員が体感できるようにする。
- 利助に手紙を書くことで、利助の行動の素晴らしさや、今までの自分、これからの自分についても見つめることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 正直に生きるとは

「(資料名) 伊藤博文 どんなばつでも受けます」

2 ねらい

山車で遊んだことを、正直に庄屋さんに話した利助の心情について話し合うことを通して、うそをつかずに素直な気持ちで行動しようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 正直に行動できなかった経験を振り返る

教師：今まで、正直に話せなかったことはありますか。

A児：ゲームをしたらいけない約束なのに、こっそりやったけど、やってないって言ったことがあるよ。

B児：宿題をしていないのに、したって言った。

C児：友達の筆箱に落書きしたけど、やってないって言ったことがある。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

日常生活の中で、正直に話せなかった経験はどの児童にもあり、どうしてそのとき正直に話せなかったのかと問い返し、「怒られるのが怖かったから。」「いやだったから。」「恥ずかしかったから。」という気持ちを多くの児童が共感した上で、「正直に生きるとはどういうことか」という課題を提示した。

(2) 展開 資料を聞き利助の気持ちについて話し合う

教師：なぜ、いっしょに逃げなかったのですか。

A児：逃げても今度また会ったときに怒られるから。

B児：お母さんに電話されるから。

C児：逃げても追いかけるから。

D児：逃げたらもっと怒られるから。

教師：利助さんの友達も逃げたけどどんな気持ちでしょう。

A児：ラッキー。

B児：怒られなくてよかった。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
資料を読む前に、「伊藤博文」「山車」「庄屋」について写真を見せて説明することで、より内容が理解できるようにした。

教師が庄屋役、児童全員が利助役になり「ごめんなさい。悪いことをしました。」の場面の役割演技をした。全員が利助役になり、逃げなかった理由をその場で考え、発表することができた。

(3) 終末 利助さんへ手紙を書く

教師：正直に謝った利助さんに手紙を書こう。

正直に謝った利助さんのことをどう思いますか。

今までの自分を思い出して、これから自分はどうなりたいかを利助さんに手紙に書いて伝えましょう。

A児：ぼくは、友達と一緒についていかずに謝るのはすごいと思いました。これからぼくも正直に謝りたいです。

B児：幼い頃利助さんは、庄屋さんに正直に言えてすごいなと思いました。今まで私は、正直なところもあればちゃんと言えないところもありました。これから私は、利助さんのように正直になりたいです。

C児：すごいですね。今まで私はパパやママに正直に言えなかったけど利助さんの話を聞いて私はパパとママに言うことにしました。

D児：山車を出して遊ばないようにね。人のはさわらないようにね。今まで私は悪いことをしてたけど、もうしないようにするね。

E児：私は今まで階段の5段目から滑っていました。これから私はしません。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
利助さんが正直に謝ったことに対する価値付けと今までの自分やこれからの自分について考えさせることで、今後の日常生活に生かせるようにする。

3 評価について

ワークシートの作成にあたっては、児童の実態を考え、書かせる内容を二つに絞った。一つは、正直に謝った利助の気持ちを考える場面で、もう一つは、最後に利助に手紙を書く場面にした。役割演技をした後に利助の気持ちを書かせることで、何をどう書くのか分かりやすかったように思う。文章が苦手な児童にとっては、正直に謝った時の利助の表情を書かせることで、その表情の理由を説明することができていた。文章の読み書きの個人差が大きい1年生には、いろいろな評価の方法が必要だと感じた。

4 実践を振り返って

逃げなかったわけは、怒られるからという考え方が多く、正直に言わないときの暗い気持ちや、正直に言って明るくすっきりした気持ちになるからという面からの意見が少なかった。

自分がしたことの善悪の判断はできるが、そのときの気持ちや考えを自分で振り返ることが課題であると感じた。今後、日常生活の中で、正直に行動した場面では、気持ちを振り返らせ、価値付けをしていきたい。

道徳の時間で活用する ～家族愛、家庭生活の充実～

1 本授業におけるポイント

- 「孝女 おまさ」を読み物資料として活用し、登場人物の気持ちを考えることを通して、家族のためにがんばる気持ちに気付かせる。
- 生活科の学習『ひろがれえがお大きくせん』と関連付けて考えさせることにより、登場人物と自分を比べ、自分の行動を振り返りやすくする。
- 登場人物の家族を思う気持ちと自分がお手伝いをしているときの気持ちを比べることにより、家族のために自分ができることをし、助け合っていくことの大切さに気付かせる。

2 授業の実際

1 主題名 家族愛、家庭生活の充実 「(資料名) 孝女 おまさ」

2 ねらい

「おまさ」が家族のためにがんばったのはなぜかを話し合うことを通して、家族を大事に思う気持ちに気づき、家族のためになることをしようとする態度を育てる。

3 展開

(1) 導入 アンケートをもとに、自分のお手伝いについて考える。

教師：『ひろがれえがお大きくせん』をしてみて、何かいいことはありましたか。

A児：ママが「ありがとう」って言ってくれてうれしかった。

B児：ママがにこにこしていました。

C児：パパもいっしょにやってくれて楽しかったよ。

教師：『ひろがれえがお大きくせん』をする前のアンケートでは、みんなはお手伝いをするわけをこんなふうに言っていました。何か気持ちに変化はありましたか。
(アンケート結果提示)

C児：うわあ。

D児：お小遣いをもらわなくても、うれしかったよ。

□ 指導上の留意点・支援「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

資料に入る前に、お手伝いについてのアンケート結果を提示したり、「ひろがれえがお大きくせん」(生活科の学習)の感想を聞いたりすることにより、身近なところから家族を思う気持ちについて考えさせ、ねらいに迫っていきけるようにする。



(2) 展開 資料を読んで、おまさの気持ちについて考える。

教師：お話を聞いてどんなことが心に残りましたか。

E児：お父さんやお母さんが寝た後も働いてすごいと思います。

F児：寒いのに命がけでお祈りしたのがすごいと思います。

G児：まだ7歳なのに、お母さんを助けようとしてすごいです。

H児：お母さんを一生懸命看病してやさしいと思います。

教師：おまさはどうしてこんなに頑張れたのでしょうか。

I児：お母さんを助けたいから。

J児：お母さんの病気を治したいから。

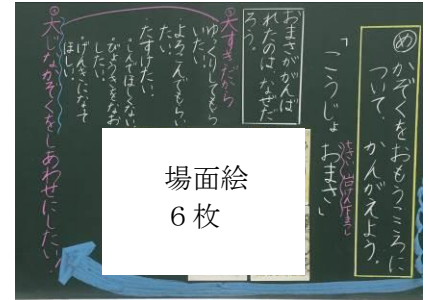
K児：お母さんに死んでほしくないから。

L児：お母さんが病気になる前から頑張っていたから、お父さんやお母さんにゆっくりしてもらいたかったんだと思います。

教師：「おまさ」の気持ちがよく分かるなあという人はいますか。
 M児：「おまさ」は、お母さんたちに喜んでほしかったんだと思います。
 N児：「おまさ」は、お父さんやお母さんが大好きだったから頑張ったんじゃないかなと思います。
 教師：誰のために「おまさ」は頑張ったのですか。
 O児：家族のために頑張ったと思います。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

「孝女」の意味や「おまさ」の年齢、お話の舞台となる場所を伝えてから読み聞かせをすることにより、より身近なものとして考えさせるようにする。病気を治すだけでなく、病気になる前にも一生懸命働いていた姿に着目させることにより、両親に喜んでもらいたいという気持ちに気付かせたい。また、誰のためにこんなにも頑張ったのか問い直すことにより、家族のために働くことに目を向けさせるようにする。

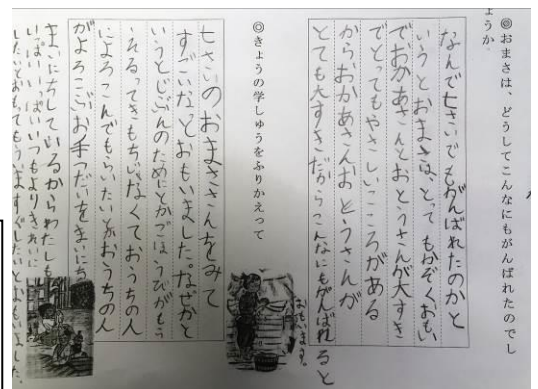


(3) 終末 自分を振り返り、これからの生活に生かす。

教師：今日の学習を振り返って、これから自分が大事にしていきたいことを書きましょう。
 P児：ぼくは、「おまさ」さんはすごいなあと思いました。お金もめんどくさいもなくて全部全部家族のためにお手伝いをしたのがすごかったです。
 Q児：ぼくは、「おまさ」さんを見てもうちょっと頑張ろうと思いました。ぼくも家族のために頑張ろうと思いました。
 R児：七歳の「おまさ」さんを見てすごいなあと思いました。なぜかという、自分のためとか、ごほうびがもらえるっていう気持ちじゃなくて、おうちの人に喜んでもらいたいとか、おうちの人が喜ぶお手伝いを毎日毎日しているからです。わたしも、いっぱいいっぱい、いつもよりきれいにしたいと思って、もう今すぐしたいと思いました。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

生活の学習でしているお手伝いを、これからどんな気持ちで取り組んでいきたいかワークシートに書かせることにより、家族の一員として家族を思う気持ちを高めたい。



3 評価について

評価方法：ワークシートの記述から
 家族のために働くことのよさに気づき、自分のためだけでなく、家族のために頑張っていきたいという道徳的価値の理解を深めることができたか。

4 実践を振り返って

本資料は、山口県に住む7歳の女の子を主人公とするお話で、子どもたちにとって身近な存在として親しみやすかった。また、生活科で実践している自分たちのお手伝いと少女を比べながら資料を読ませることにより、家族の一員として自分ができることをしていこうとする気持ちを高めることができた。この気持ちを継続していけるよう、学習後自分たちができることをもう一度話し合い、お手伝いカードを作った。また、おうちの方からコメントをいただくことにより、おうちの方の気持ちに気づき、家族のために頑張ることの喜びを味わうことができたように思う。

道徳の時間で活用する
～正直、誠実～

1 本授業におけるポイント

- 心情スケールを用いて感じたことを発表し合うことで、多様な感じ方があることを知るようにする。
- 役割演技を仕組み、読み物資料の主人公と同化させ、主人公の心の動きに共感することができるようにする。
- 振り返りの時間をしっかり確保し、正直に行動することの大切さに気付かせる。

2 授業の実際

1 主題名 正直に生きるとは「(資料名) どんなばつでも受けます」一部改作

2 ねらい

山車で遊んだことを、正直に庄屋さんに話した利助の心情について話し合うことを通して、うそをついたりごまかしたりしないで、素直な気持ちで行動しようという心情を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師：悪いことをしたときに、うそをついたりごまかしたりしないで、すぐにごめんなさいが言えますか？ 「すぐ謝る」という人は10、「謝れない」という人は0として、自分のことを考えてみてください。

すぐに言える								言えない		
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
3人	2人	1人	2人	8人	4人	5人	3人	0人	1人	3人

教師：なぜ、それを選んだのですか（ワークシートに書いて発表）。

A児：ちょっとだけ嘘をつくからです。

B児：先生から言われてから謝る時があるからです。

C児：私は、すぐに、だまってしまう。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・心情スケールを使って、自分自身に向き合って考えられるようにする。

(2) 展開

教師：（絵やキーセンテンスを黒板に貼りながら、資料を読む。）

おこっている庄屋さんを見て、利助さんはどうしたと思いますか。

D児：「もうしません、ごめんなさい。」と謝ったと思います。

E児：おこられるのがこわいから、逃げたと思います。

教師：実は、利助さんは、逃げたりうそをついたりしないで、庄屋さんに謝りました。利助さんになって、庄屋さんに謝ってみましょう。

(庄屋役と利助役に分かれて役割演技する)

どんな気持ちになりましたか(ワークシートに書いて発表)。

G児：すっきりした。

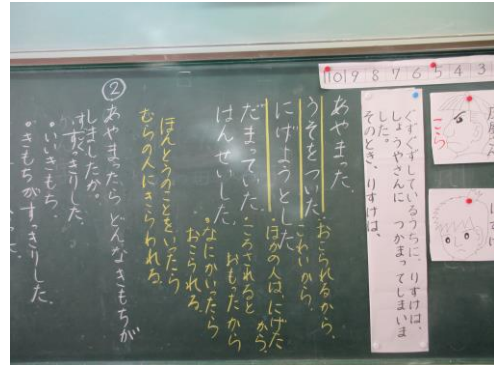
H児：いい気持ち。

I児：言えて、うれしい。

教師：素直に謝ってもらった庄屋さんは、
どんな気持ちですか。

J児：うれしかったです。

教師：謝った利助さんだけでなく、謝って
もらった庄屋さんもうれしいのね。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・素直になれない場合を考えることで、正直に行動することの難しさについて考えられるようにする。
 - ・「役割演技」を取り入れ、利助の正直な心情に共感できるようにする。
 - ・うそをついたり、ごまかしたりしない正直な気持ちで行動すると、明るい気持ちになることを実感させる。

(3) 終末

教師：今日の学習を振り返って、大切だと思ったことを書いてみましょう。

全員：(ワークシートに書いて、発表する)

・今度からちゃんと「ごめんなさい。」を言う。

(心情スケール0の児童)

・謝るのは、大切と分かった。(心情スケール4の児童)

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・導入の心情スケールで、低い点をつけていた児童に発表させるようにして、道徳的価値が深まっていることが感じられるようにする。

3 評価について

評価方法：ワークシートの記述

導入時と終末時の意見の変容から、うそをついたりごまかしたりしないで、素直な気持ちで行動しようという道徳的価値の理解が深まっているかを見取る。

K児

(導入) 私は、自分がしているのに、人のせいにしてしまう。

(終末) 私は、すぐに謝るようにする。

4 実践を振り返って

間違ったことをしたときどうすればいいのか、考えさせることができた。うそをついたりごまかしたりしないで、素直な気持ちで行動しようという心情を育てるのに適した資料であったと思う。

道徳の時間に活用する ～家族愛、家庭生活の充実～

1 本授業におけるポイント

- 授業の前後に、生活科の学習と結び付けた学習の展開を行う。
- 地域の偉人でもある「おまさ」にも現代に生きる自分にも「家族を大切に思う」という共通する気持ちがあることに気付かせる。
- 授業後に道徳ノート（ワークシート）を持ち帰らせることで、家族と話をするきっかけとし、実践へとつなげられるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 家族を思う心「（資料名）孝女 おまさ」

2 ねらい

主人公「おまさ」がお母さんやお父さんのためにがんばった理由について話し合うことを通して、家族を大事に思うことの大切さに気づき、家族のためになることをしようとする態度を養う。

3 展開

（1）導入 自分自身のお手伝いについて考える。

教師：お手伝いをしていますか。どうしてお手伝いをしているのですか。

A児：お風呂掃除をしています。（家族に）喜んでほしいからです。

B児：たまにしかしていません。面倒だからです。

C児：お汁やご飯をついだりしています。（親が）疲れているからです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
- 日頃の手伝いについて考えさせることで、価値への方向付けを行う。その際、手伝いをしている（していない）理由を問うことで、250年前の「おまさ」と、現代に生きる自分との気持ちを比較したり共感したりしやすくする。「孝女 おまさ」は、時代背景はつかみづらい話ではあるが、本校の校区内である笠戸島と町探検で行った妙見宮が出てくる話である。そのため、児童にとって考えやすく、郷土愛も感じられる資料である。

（2）展開 おまさがかんばった理由を考え、自分と似たところを探す。

教師：どうしておまさは、こんなにもがんばれたのでしょうか。

A児：お父さんお母さんに喜んでほしい。

B児：はやく元気になってほしい。

C児：お父さんお母さんに笑顔でいてほしい。

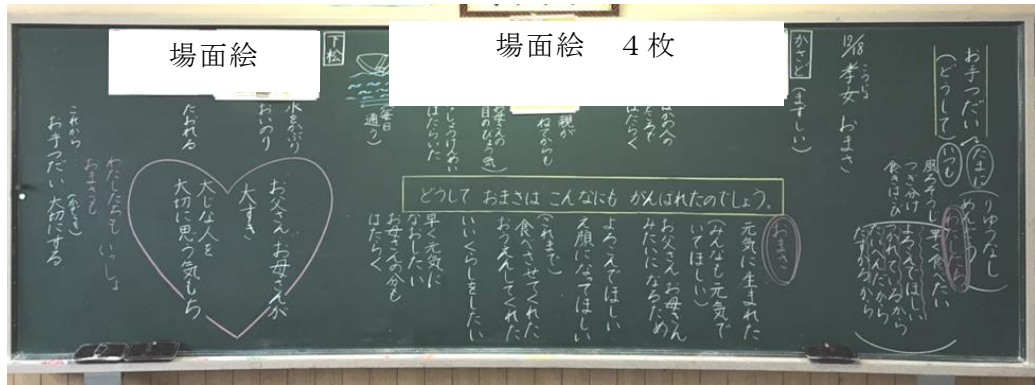
教師：始めに話していた、自分の理由と同じところがありますか。

A児：家族に喜んでほしいというところが一緒です。

B児：おうちの人に、元気でいてほしいというところが一緒です。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント

「おまさ」の生きた時代背景や状況を捉えやすくするため、紙芝居で資料を提示しながら、物語の中の重要となるキーワードと共に構造的な板書になるように紙芝居の絵を黒板に貼っていく。また、導入で考えた「家族を大切に思う」という思いを、「おまさ」も自分たちも共通してもっている気持ちであるということに板書からも気付かせる。



(3) 終末

教師：今日の授業を振り返って、これからについて考えてみましょう。
 A児：今までは、お手伝いを面倒だと思っていたけれど、そう思わずにお手伝いをしようと思います。
 B児：お手伝いをしてみます。12月が終わってもずっと続けたいです。
 C児：おまささんががんばっていたから、私もがんばりたいです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント
 今後家族に対してどう接していきたいかを、「おまさ」と比較しながら、自分事として考えさせる。

3 評価について

ワークシートを活用し、視点を絞って児童が考えることができるようにした。主発問に対する児童の思考の流れと、振り返りにおける道徳的価値の理解が深まったかを評価することができた。具体的な実践へつなげるために（ワークシートを貼った）ノートを持ち帰らせ、家族に話をする機会をとった。

今後、児童とノートへの記述を適宜振り返ることで、児童自身が自らの成長を実感するきっかけ作りもしていきたいと考える。



4 実践を振り返って

山口県内で起こった出来事や活躍している人を取り扱っているため、児童が郷土愛を感じることができる。「孝女 おまさ」は学校の校長室に肖像画があり、下松市の方が描かれた手作り絵本も図書室にあるため、児童に紹介することができた。地域の偉人を大切に思っている人々の思いも、感じることができていた。

道徳の時間で活用する ～感謝～

1 本授業におけるポイント

- 「たくさんのありがとう」の資料から、作者の児童がたくさんの人たちに支えられていることについて考え、自分たちも身近なたくさんの人たちに支えられていることに気付かせる。
- 感謝の気持ちを表したい人をたくさん見付けて、小中学校全体で行う地域の方々への「感謝の会」に、目的意識をもって臨めるようにする。（学校行事との関連）
- 地域サポーターの「自分も支えられてきて、今度は支えていきたい」という思いを告げることで、感謝の気持ちの表し方に気付かせる。

2 授業の実際

1 主題名 感謝の気持ちをもって「（資料名）たくさんのありがとう」

2 ねらい

資料をもとに話し合うことを通して、自分たちの生活を支えている人々の存在に気付き、心から感謝の気持ちをもって生活しようとする心情を養う。

3 展開

（1）導入 トラストウォークに取り組む。

教師：友達に手伝ってもらって図書コーナーまで行ってみましょう。

児童：はじめは怖かったけど、途中から安心して歩けました。

教師：連れて行ってくれた友達になんて言いましょうか。

児童：ありがとう。

教師：今日はその『ありがとう』について考えてみましょう。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
導入の段階でトラストウォークに取り組みせ、この活動を通じた実感をもとに「ありがとう」の言葉が自然に出る状況をつくる。その上で、「たくさんのありがとう」の資料を聞くことで、感謝の気持ちをより感じとらせたい。

（2）展開前半 「たくさんのありがとう」を読んで話し合う。

教師：『ぼく』は、病気をしてどんなことに気が付いたのでしょう。

A児：命の大切さ。

B児：当たり前前が当たり前じゃなく、うれしいこと。

C児：みんながすごくやさしいということ。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「たくさんのありがとう」の資料については、小学校2年生の児童にとって難しい表現があるので、分かりやすい表現での説明を加える。

(3) 展開後半 ありがとうを言いたい人や言いたいことについて考える。

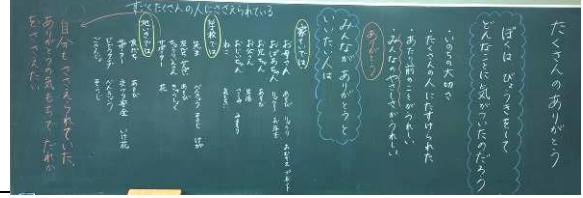
教師：『たくさんのありがとう』を書いた人のように、みなさんも『ありがとう』を言いたい人がいるようですね。学校、家庭、地域の中で、〈だれに〉〈どんなこと〉でありがとうを言いたいですか。

児童：お母さん。地域の方。

児童：料理を作ってくれる。

一緒に遊んでくれる。

花のお世話を手伝ってくれる。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

自分の生活を支えてくれている人たちの名前やその様子についてたくさんの意見が出てくるが、どんな小さいことも取り上げ、たくさんの人たちが関わってくれていることを実感させる。

(4) 終末 支えてくれている地域の方の話聞き、振り返る。

教師：「私たちは、『たくさんのありがとう』を書いた子のように、たくさんの人から支えられているのですね。先ほどみんなが支えられていると言っていた地域サポーターの方の話を聞いてきました。『自分もこの学校、この地域で育ててもらって何か役に立てればと思って、今、得意な花壇のお世話の手伝いをしています。自分も支えられてきて、今度は支えていきたい。』と言われていました。今日の学習の振り返りをしましょう。

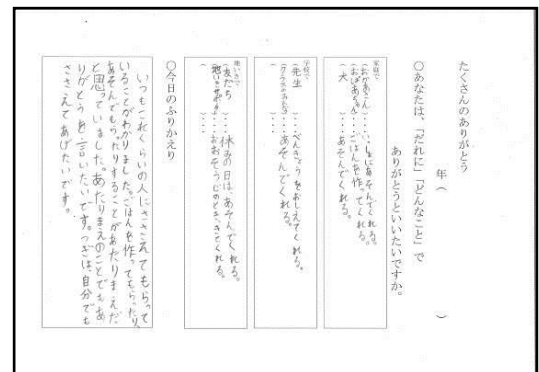
A児：「いっぱいみんなに支えられてきたことがわかりました。みんなにありがとうと言いたいです。」

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

今回は、地域の方の話を教師が伝えたが、機会があれば地域サポーターの方と打ち合わせを行い、地域の方の生の声を聞かせることでより実感を伴わせたい。

3 評価について

本時においては、児童の発言とワークシートの記述を見ての評価となる。主に展開後半における「ありがとう」を言いたい人や言いたいことについて、友達の見聞を聞きながらさらに考えることができたか、振り返りにおいて、自分自身との関わりにおいて道徳的価値の理解を深めているかを視点に評価を行う。



4 実践を振り返って

児童の作文を資料として利用することで、身近なこととして捉え、素直に話に入り込むことができたようである。作者の児童に手紙を書いたような文章で振り返りを行っている児童もあり、心を動かすことのできる資料であったと感じた。本校では、今回の内容を実践化する機会があるので、年間指導計画に位置付けて今後も活用していきたいと思う。

道徳の時間で活用する ～家族愛、家庭生活の充実～

1 本授業におけるポイント

- 資料の内容理解を図るために難しい言葉の補足説明を入れたり、主人公の必死な思いに共感させるために「自分ならどうするか。」という問いかけを入れたりしながら資料提示を行う。
- 自分の行いを振り返る活動では、グループ内発表や全体発表を仕組み、家族を大切にしている思いにしっかりと触れさせる。
- 終末では「孝女」の意味を説明し、家族を大切にしていこうという思いをもたせる。

2 授業の実際

1 主題名 かぞくをおもう心「(資料名) 孝女 おまさ」

2 ねらい

「孝女おまさ」の行動を話し合ったり、自分の行いを紹介し合ったりすることを通して、家族のためになることをしようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 資料「孝女 おまさ」を聞いて感想を出し合う。

教師：お話の中で、どんなことが心に残りましたか。

A児：雪でも雨でも毎日神様にお祈りに行くのがすごい。

B児：子どものころから働くななんてすごい。

C児：お父さんやお母さんを思う心がすごい。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

まず、資料に興味をもたせるため地図で下松の笠戸島を示す。次に、「○○おまさ」と資料名を板書し、「ここにどんな言葉が入るだろうか。どんなおまささんなのか考えていこう。」と投げかける。さらに、話を読み聞かせるときには、資料の絵を提示しながら、2年生の児童に分かる言葉遣いに直したり、具体例を挙げたりして、資料理解を図る。児童の感想は場面絵の周りにキーワードで書くようにする。

(2) 展開 おまささんの気持ちについて話し合う。

教師：どうしておまさんは、こんなにもがんばることができたのでしょうか。

A児：お父さんやお母さんが好きだからがんばろうと思ったから。

B児：お父さんとお母さんが大変だから助けたいから。

C児：お父さんやお母さんが大事だから。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
いろいろな考えに触れさせるために、一人で考えた後、ペア交流、全体交流へと進める。時間があれば、全体交流に入る前に自由交流の時間を設けるとよい。

(3) 終末 自分のことを振り返る。

教師：お家の人のことを思って何かしたことはありませんか。ワークシートに書いて紹介しましょう。

A児：お母さんやお父さんが疲れていたから、洗濯物をたたんだよ。

B児：お母さんに肩もみをしたよ。お母さんが「気持ちいい。」って言うてるから。

教師：〇〇に入る言葉が浮かんできましたか。

A児：「いい」とか「やさしい」かな。

教師：今日の学習で分かったことを書いてみましょう。

A児：いつも一つはお手伝いをしようと思った。

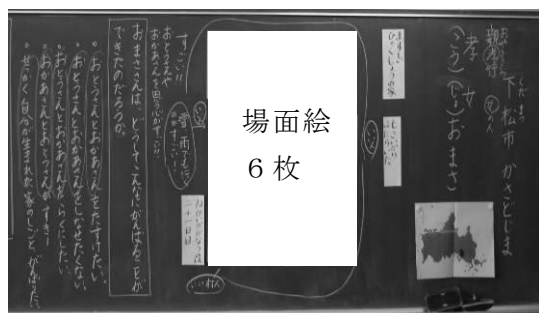
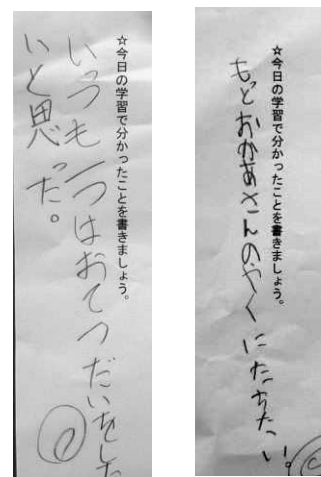
B児：ぼくももっとお母さんの役に立ちたい。

C児：自分にできることをして家族を助けたい。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・ワークシートに書かせた後、グループ内発表→全体発表を仕組む。全体発表の際には、心に残った友達の行いを紹介させることとした。たくさんの体験を聞き合う中で、家族のために何かしようとする意欲付けを行う。
 - ・〇〇に入る言葉（孝女）を、児童や主人公の行いと結び付けて説明する。

3 評価について

ワークシートの最後に「今日の学習で分かったこと」を書かせることで、本時の道徳的価値への理解の深まりを評価する。



4 実践を振り返って

「みんなちがってみんないい」は、物語資料1だけでなく、挿絵資料2が充実しているため児童も話の中に引き込まれ、主人公の生き方に感動をすることができた。授業展開の中では、自分たちの経験を出し合う活動を通して「家族が大好き」「家族のために何かしたい」という思いにしっかりと浸らせたいと考えた。日頃、手伝い体験や家族との関わりが乏しい児童でも友達の発言を聞き、家族を大切に思う気持ちをもつことができた。

道徳科の時間で活用する
～正直、誠実～

1 本授業におけるポイント

- 地域で活動しておられる「光紙芝居」の方に昔話を上演していただき、道徳的価値を確認する。
- 主人公の葛藤について二つの立場に分かれて議論することで、対話による多面的な見方ができるようにする。
- 授業の振り返りを行い、自分自身の生活を見直すことで、「正直に生きる」という視点を基に自分自身の生き方について考えさせる。

2 授業の実際

1 主題名 正直に生きるとは

「(資料名)「林利助物語」光紙芝居)」

2 ねらい

利助の葛藤について議論することで、正直に行動することの大切さに気付き、過ちは素直に改め、明るい心で生活しようとする態度を育てる。



3 展開

(1) 導入 感想を交流し、利助のすごいところについて話し合う。

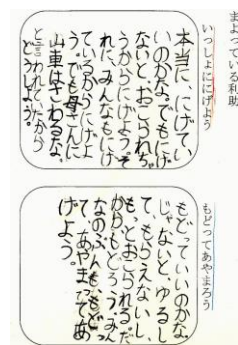
教師：「利助ってすごいな。」と思ったところはどこですか。
 A児：悪いことをしてみんな逃げたのに利助だけ戻って謝ったところです。
 B児：正直に自分が悪かったと言ったところです。
 C児：怒られると分かっているけども戻って謝ったところです。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

「利助は正直ですごい」と思うだけでなく、後に総理大臣になる伊藤博文にも、私たちと同じく「怒られるのはこわい」という気持ちがあることにも気付くことができるように、迷っていた利助を想起させるようにする。

(2) 展開 「逃げたい」「謝らなければ」という2つの立場で議論することで、多面的な見方ができるようにする。

教師：「逃げたい」「謝らなければ」と迷う利助の気持ちを考えましょう。
 A児：みんな逃げたから、一緒に逃げたと思います。
 B児：一度逃げたけど、村の大事な山車だから、戻って謝ったのだと思います。
 C児：逃げたのは、庄屋さんに怒られるのがこわいからだと思います。
 D児：怒られるのがこわいからと言って、悪いことをしたのだから謝るべきだと思います。
 E児：謝らなければ心がもやもやすると思います。



ワークシート

F児：謝らなければ、悪いことしたという気持ちを一生背負って生きていかなければいけないので謝ったと思います。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「逃げたい」「謝るべき」という両方の立場を考えさせた上で、色カードで自分の立場をはっきりさせて議論する中で、様々な考え方に触れさせ、自分の考えを広げ、深めていけるようにする。

(3) 終末 振り返りをして、自分自身の生活を見直す。

教師：今日の学習を振り返って、何かに迷った時、どう行動すればよいか考えてみましょう。

A児：私は、すぐに謝ったらよかった時があったけど、利助みたいにすぐに謝りに行けなかったので利助は正直ですごいと思いました。

B児：友達と言い合いになって謝れない時がありました。その時正直に謝ればすぐに仲直りができたと思います。

C児：利助みたいにこれからは、悪いことをしてしまったら正直に謝りたいです。ずっと心にもやもやが残るといやだからです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
本時の価値を自分事として捉えることができるように、振り返る時間を設ける。

3 評価について

- ・ネームプレートを活用した板書により、授業後に児童の思考を見取ることができる。
- ・ワークシートの利用により、これまでの自分を振り返っている様子や、友達の意見や考えを聞き、考えの深まりを見取ることができる。

今日の授業をふりかえって（正直に生きることにしたい）

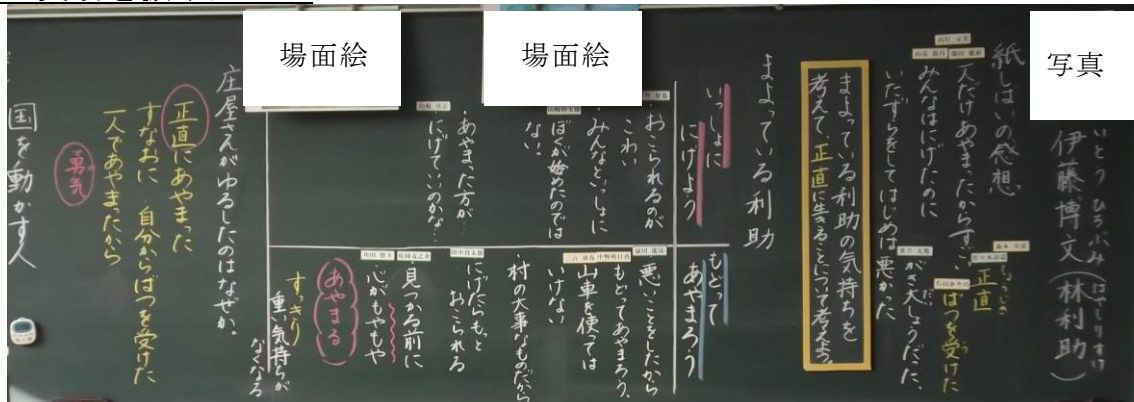
利助は、すぐに謝らなければ、悪いことしたという気持ちを一生背負って生きていかなければいけないので謝ったと思います。

友達の考えを聞いて、自分の考えを深めている。

主人公の姿を鑑に自分自身の行動を振り返っている。

わたしはあの時あんなに利助みたいにすぐに謝りに行けなかったけど、利助は正直ですごいと思いました。

4 実践を振り返って



幼少期を光市の東荷地区で過ごした伊藤博文を地域教材として活用するにあたり、地域で活躍されている「光紙芝居」の方に昔話の上演と授業の終末に感想をいただいたことは、大きな成果であった。子ども同士だけではなく、大人の間にも触れたことで学びの幅が広がり、自己変容の必要性が強まり、自分事として前向きに捉えようとするなど、道徳的実践意欲の向上につながった。

道徳の時間に活用する
～希望と勇気、努力と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- 「自分の願いを叶えるために大切な事は何か」という問題意識をもたせるために、自分の目標（夢や願い）を事前にきちんと考えさせておくようにする。
- 理科の学習「明かりをつけよう」（豆電球）を想起させたり藤岡市助さんの人となり（山口県出身ということなど）を知らせたりすることで資料を身近に考え、価値に迫れるようにする。
- 藤岡市助さんの心の葛藤を心情線や顔マークを使って考えさせるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題名 目標に向かって努力する「（資料名）藤岡市助物語」
- 2 ねらい
自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。
- 3 展開

（1）導入 自分の願いをかなえるために大切なことは何かという問題意識をもつ。

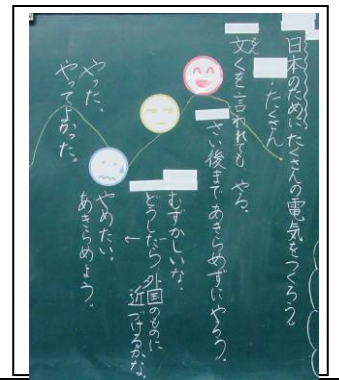
教師：今、目標（夢や願い）は、ありますか？それは、どんなことですか。
 A児：サッカー選手になること。今、練習をがんばっているから。
 B児：助産師。何となく。
 C児：トリマー。犬を飼っているし、犬が大好きだから。
 教師：（藤岡市助さんの顔絵を提示）この人は、自分の夢（願い）をかなえた人です。誰なのか、どんなことをした人なのか知っていますか？
 A児：日本のエジソンと言われた人。お母さんから聞いたことがある。
 教師：自分の夢（やりたいこと）をかなえるために大切なことは何か（どうしたらいいか）について考えてみましょう。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

自分たちの問題として捉えさせるためにあらかじめアンケートをとり、自分のことを想起させておくことで、価値への方向付けを行いやすくするとともに終末の段階でも自分のことを振り返れるようにする。今、まだ将来の夢がないという児童には、現時点での目標ややりたいことを想起させるようにする。

（2）展開 資料「藤岡市助物語」を読み、話し合う。

教師：白熱電球をつくっているときの市助さんは、どんな気持ちだったでしょう。
 A児：日本のためにたくさんの電気をつくろう。
 B児：エジソンとの約束を果たすぞ。
 C児：文句を言われてもやる。
 教師：エジソンとの約束からやっとな国産の電球をつくり出すまで12年間、ずっとそう思ってきた？
 A児：どうしたら外国の物に近付けるかなと、途中でやめたくなったこともあったと思う。
 B児：何度実験しても成功しない。難しいな。やめたい。
 C児：もうあきらめようという気持ちもあったかもしれない。
 教師：そんな思いもあったのに、どうしてがんばれたのかな。
 A児：絶対やり遂げる、あきらめないという強い気持ちがあったから。
 B児：日本のみんなのためにがんばろうと思った。
 C児：エジソンとの約束を果たすという気持ちがあったから。



教師：市助さんのよいところは、どんなところでしょう。
 A児：辛いことがあっても最後まであきらめずに続けたところ。
 B児：あきらめたいと思っても、考えて頑張ったところ。
 C児：自分でつくりたいと強く思ったところ。努力して約束を果たしたところ。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 中心発問「白熱電球をつくっている時の市助さんは、どんな気持ちだったでしょうか。」のころでは、ワークシートに自分の考えを書くことで、目標に向かって頑張っている気持ちを具体的に考えられるようにする。その際、年表を使うことで成功させるためにどれだけ長い年月がかかったのか、時には何度も失敗を重ねることなくじけそうになることもあったであろうことなどを考えられるようにする。また、心情線や顔マークも使いながら藤岡市助の気持ちの上がり下がりや想像させることで、心の葛藤を乗り越えてこそやり遂げてよかったという気持ちをもてたことをしっかり確認できるようにする。

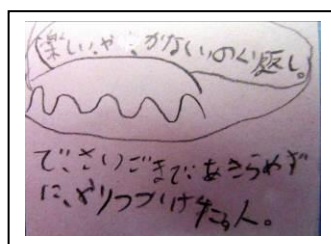
(3) 終末 今までの自分、これからの自分という視点で自分に置き換えて振り返る。

教師：決めた目標に向かって今までの自分はどうでしたか？これからどうしていききたいですか？
 A児：これまでは、ピアノの音やテンポをお母さんに教えてもらっていたから、これからは自分で音やテンポが分かるようにしていきたい。
 B児：今までは漢字がうまく書けなくて書くのが嫌だったけど、これからは書くのを頑張っていきたい。
 教師：自分の願いをかなえるために大切な事は？（どうすればいいでしょう？）
 C児：あきらめないこと。
 D児：続けていくこと。
 教師：あきらめないって難しいけど、難しいことほどやり遂げた時の喜びはきっと大きいでしょうね。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 3年生の発達段階では、夢というはまだ漠然としたもので具体的な行動をしていないので、目標という言葉の方が自分に置き換えて振り返れる。展開で藤岡市助のよさ＝あきらめないところということがキーワードになったので、そういう視点での振り返りがされていた。

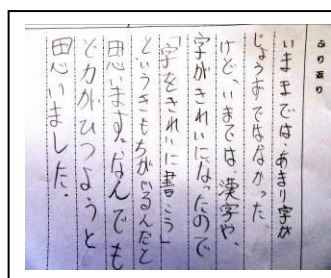
3 評価について

板書において、ネームプレートを使い、誰の発言かを記録していくことで、授業後の見取りをしていける。また、ワークシートに自分の考えや振り返りを記入させることで、発表できなかった児童の考えも見取ることができる。実際にワークシートの隅に残ったことをメモ書きしている児童や「バタフライの足を揃えられなかったので、手と足のタイミングを合わせて足をそろえたい」という具体的な次の目標を打ち立てている児童も見取ることができた。



4 実践を振り返って

今回この資料を扱うに当たって、藤岡市助＝日本のエジソンだということを保護者から聞いて知っていた児童もいたり、藤岡市助が岩国市出身だということ、理科で明かり（電球）について学習したりしたこともあって、興味深く資料について考えられた。日常の生活において、分からないことや難しいと思ったことはすぐあきらめがちな児童が多いが、この授業を通して誰しも困難なことや嫌だと思ふことにぶつかってしまうが、続けて取り組むことで達成感や喜びを感じるとともに自分にとってプラスの力になるということを感じ取ってくればよいと思う。



道徳の時間で活用する ～勤労、公共の精神～

1 本授業におけるポイント

- 山口県出身であるまど・みちおさんの「朝がくると」の詩の世界に浸らせ、日頃当たり前と思っていることが、当たり前ではないということに気付かせる。
- どうして学校に行くのかを考えさせるきっかけにする。
- 授業の感想から、将来の自分についても考えられるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 だれかの生活をささえられる人に「(資料名)朝がくると」

2 ねらい

自分の生活がいろいろな人たちに支えられていることに気づき、これからの自分のことについて考えられるようにする。

3 展開

(1) 導入 詩を音読し、視写する。

教師：まど・みちおさんのことを知っていますか。「ぞうさん」や「1年生になったら」等をつくった詩人です。どこの出身か知っていますか。

A児：どこかな。山口県内。

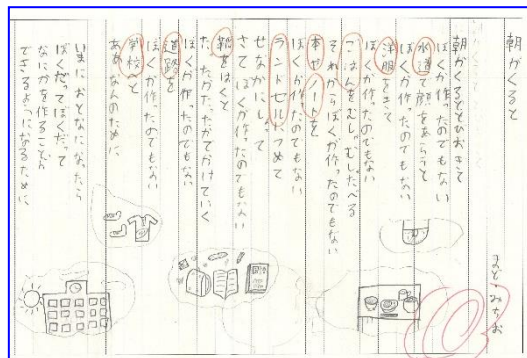
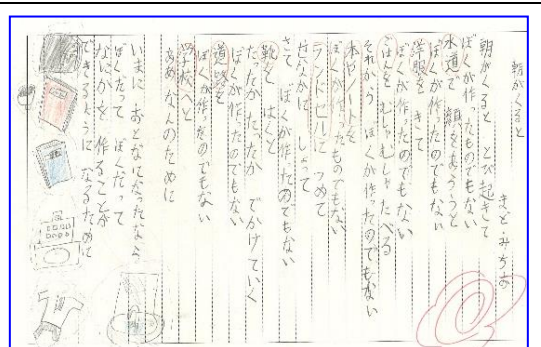
教師：周南市出身です。徳山動物園に行ったことはありませんか。徳山動物園がある場所が周南市です。

B児：徳山動物園は行ったことある。

教師：まど・みちおさんの「朝がくると」の詩を音読してみましょう。

C児：「ぼくが作ったのでもない」ってことばが繰り返し出てくるね。

教師：プリントに視写しましょう。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
詩を視写させることで、より深く詩の世界に浸れるようにする。また、早く視写できた児童から絵を描き、いろいろなものが多くの人のおかげであるということを感じさせるようにする。

(2) 展開 「ぼくが作ったのでもない」ものには何があるのかを考える。

教師：「ぼく作ったのでもない」ものはどんなものがあるでしょうか。

D児：水道。

教師：水道は誰が作ったのでしょうか。

E児：水道の工事をする人かな。

教師：ごはんは、誰が作ったのでしょうか。

F児：お母さんが作ってくれるよ。

G児：でも、野菜は農家の人が作ってくれているよね。

H児：いろいろな人が支えてくれているんだね。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
詩に出てくる「ぼくが作ったのでもない ○○」に注目し、それは誰が作っているのかを一つひとつ確認することで、いろいろな人のおかげで自分たちは生活できているということに気付かせる。

(3) 終末

教師：今日の学習の感想を書きましょう。

I児：世の中には、人々を救っているいろいろな人がいるので、ぼくも人々を救って、世のためになるようにしたい。

J児：学校に行くことで、未来につながる事が分かった。

K児：今、ぼくは、多くの人に支えられて助けられている。だから、大人になったら反対に、助けてあげたいと思いました。

L児：どうして学校に行かないといけないのか分かった。今まじめにしないと将来が大変だなと思った。これからはもしっかり勉強したい。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「朝がくると」を通して感じたことを、ワークシートに書かせる。その後、数名に全体の前で発表させ、友達を感じたことを共有できるようにする。

3 評価について

評価方法（プリント・発表等）

詩を通して感じた「自分は周りの人に支えられて生きている。」ということと、「これから、自分はどうしたいか、どんな大人になりたいか」ということを、プリントに書かせる。

4 実践を振り返って

児童は、学校に来て勉強することは当たり前のことだと感じているが、なぜ勉強しなければならないのかは考えていないことが多い。「朝がくると」の詩を通して、当たり前のように学校に通えるのは誰のおかげなのか、勉強はどうしてするのかを考え、自分の未来について思いをはせながら、1日1日を大切にできるようになるきっかけになった。

道徳の時間で活用する ～生命の尊さ・感謝～

1 本授業におけるポイント

- 総合的な学習の時間の「二分の一成人式」と関連を図った道徳の授業を行う。
- 日野原重明さんの著書「いのちのおはなし（10歳のきみたちへ）」を活用して授業を行い、「命は生きていく時間」という言葉から、子どもたちに「いのち」について自分事として考えさせる。
- 「いのち」と自分を関わらせながら自己の生き方への考えを深めることで、総合的な学習の時間の「二分の一成人式」での学習も深まるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 つながる命について考えよう「（資料名）いのちのはなし」

2 ねらい

聴診器で心臓の音を聴いたり、日野原重明さんの著書「いのちのおはなし」を読んだりすることを通して、命とは何かということについて考え、つながっていく命について考えるとともに、自他の命を大切にしようとする心情を養う。

3 展開

(1) 導入 日野原先生の紹介を聞き、「いのち」について考えていくことを知る。

教師：「いのち」はどこにあると思いますか。

A児：心臓

B児：脈（血液が流れている）

B児：頭（脳）

C児：体全部

教師：心臓の音を聴いてみましょう。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

- ・日野原先生の経歴に関して、説明を加える。
- ・「いのち」を実感するために、聴診器でお互いの心臓の鼓動を聴く。
- ・心臓の鼓動を聴いた後で、主発問を投げかける。

※「みんなちがってみんないい第Ⅱ集」P5～8参照

(2) 展開 「いのちのおはなし」を読み、「これから生きていく時間が自分のいのち」という言葉について考える。

教師：「なんだかこわい」（「いのちのおはなし」の中から）と言った子どもは、どんなことを感じていたのでしょうか。

A児：見えない音が聞こえてくるから怖く感じた。

B児：一定のリズムで、ドク、ドク、ドク、低くて不気味に感じたのではないかな。

C児：日頃の生活では、聞き慣れない音だから。

D児：この音が止まったら、人は死ぬんだと思ったから。

教師：日野原先生の「これから生きていく時間が自分のいのちである」という言葉は、私たちへのどんなメッセージだろう。

《個人で道徳ノートに記載 → グループでの話し合い》

《児童の道徳ノートから》

- ・もし、事故にあったら（死んでしまったら）、その時、時間が止まる。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんになったらいつか死ぬから、死ぬまでにやりたいことをやる。
- ・死んだら、自分の時間、いのちも止まってしまう。それぞれのもっている時間がいのちになる。
- ・時間でも、止まる時がある。生きるということは、時間と同じ。
- ・時間の中で、いのちは動いている。
- ・時間は、ゆっくりカチカチ、いのちも、確実にドクドク。
- ・いのちがあっても、充実した時間がもてなければ、死んでしまう。
- ・いのちが少ない時間でも、楽しんで生きることはできる。

《グループの発表から》

Aグループ：人生は時間だから、やることはいっぱいある。それをがんばりなさい。

Bグループ：時間はいのちと一緒に動く。一日一時間を大切にしなければいけない。

Cグループ：心臓が動いている間、時間が経ち、人生は続く。自分の時間を大切にいなさい。

Dグループ：与えられた時間が自分のいのちになるのなら、それをどれだけ精いっぱいつかい切るかが大切。それが、ぼくたちへの宿題だと思う。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・まずは、日野原先生のメッセージを、自分事として受け止めるために、道徳ノートに、自分の思いを書かせる。抽象的なことより、日常的な自分の生活と結び付けて考えている児童の考えを全体に読んで聴かせ、考える糸口にする。
 - ・グループでの話し合いでまとめることが難しいときは、全体で話し合い、みんなで考えた言葉を付け加える。
- ※日野原重明「いのちのおはなし」で生命の尊さを感じ取る（坂本哲彦先生）
（EDUPEDIA）参照

(3) 終末 「いのちのおはなし」の後書きを読み、これからの自分の時間のつかい方について考える。

教師：みなさんは、これから、自分のいのちである時間をどんなことにつかいたいですか。
《ワークシートから》

A児：ぼくは、いのちを人のためにつかおうと思いました。せつかく、お母さんお父さんから生きていける時間をもらっているのだから、人のために時間をつかっていけたらなと思いました。お母さんとお父さんに、ぼくはいろいろな人のために役立っているよというところを見せたいなと思いました。そして、お母さんお父さんだけでなく、ぼくのために時間をつかってくれた人に、恩返しみたいな感じで、人の役に立っていききたいなと思いました。

《保護者のワークシートの返事より》

Bさん：自分の時間を他の人のためにつかうのは、とてもすばらしいことだけど、小学生には難しいことかもしれません。今の段階で、人のためにとっている内容は、子どもらしいものですが、これを積み重ねて、人の役に立つ仕事を見つけてほしいなと思います。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・後書きを読んで聴かせた後、ワークシートに自分がこれからどんなことに時間をつかっていきたいかを書くようにする。
 - ・ワークシートは、道徳の授業の様子を知らせた学級通信とともに持ち帰り、保護者の返事を書いてもらうようにする。

3 評価について

- ・自分の考えは、道徳ノートに書かせることを基本とし、いかに自分事として捉えることができているかの評価の材料とする。
- ・グループでの話し合いの様子を観察し、自分の考えを進んで発表したり友達の意見を聴いたりする中で、「いのち」について多面的・多角的に考えることができているかどうかの評価の材料とする。
- ・終末ではワークシートを活用する。みんなで話し合ったことで自分の考えを深めたり広げたりすることができたかどうかの評価の材料とする。



4 実践を振り返って

二分の一成人式を行うにあたって、道徳と関連付けることで「命の尊さ、感謝」について、より自分事として価値観を深めることができなかと考えた。また、この式を機会に、児童たちが精神的にも成長できるようにと考えて見付けたのが、日野原重明先生の「いのちのおはなし（10歳のきみたちへ）」だった。特に、この本の後書きの「時間は自分たちのためだけではない。他の人のためにつかいなさい。」これが、私の心に響いた。まず、自分のこと・・・という児童が多い中で、人のために働くことに喜びを感じてほしいと日頃から思っていたからだ。そんな中で、「みんなちがってみんないい」の中に、低学年でこの話を扱った実践事例を見付け、これを中学年の二分の一成人式に関連をもたせて授業ができると考えた。命と時間を結び付けて考えることは、10歳の児童たちには難しい。けれども、日頃命についてじっくり考えることなどなかった児童たちが、聴診器で心臓の鼓動を聴いて、生きている自分や友達を実感した後、日野原先生の言葉にふれ、その意味について友達と話し合ったことは、とても有意義な活動であったと思う。道徳ノートには、「これから生きていく時間が自分のいのち」の言葉の意味を自分事としてとらえた素直な表現が並んでいた。そして、グループでは、その言葉のメッセージ性について話し合い、自分のいのち（時間）のつかい道について言及することができた。



道徳の時間で活用する ～希望と勇気、努力と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- 「みんなちがってみんないい」では中学校での内容になっているが、地域の先人としてなじみがあり、3・4年生の社会でも地域教材で学んでいた岡藤五郎先生について取り上げることで、より自分の身近なこととして考えさせる。
- 「みんなちがってみんないい」で明記されている「予想される生徒の反応」を岡藤五郎のすごさとして紹介し、多様な価値観に触れさせることで、児童に自分の考えを深める材料とさせる。

2 授業の実際

1 主題名 ひとすじに生きる

「(資料名) バイクを駆って古代のロマンを追い続けた化石先生—岡藤五郎—」

2 ねらい

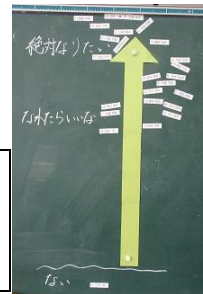
岡藤五郎の化石研究に対する思いや行為を考えることを通して、自分の夢を実現させるためには、強い意志が必要なことに気付かせ、実現に向けて努力したいという心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 自分の将来の夢についての思いを発表する。

教師：4月に書いた自分の将来の夢について、今、どれくらいの気持ちをもっていますか。

児童：絶対になりたい。なれたらいいな。ない。 など



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
将来の夢について4月に書いたものと今の思いを比較させ、実現に向け努力しているか意識させることで価値への方向付けをする。

(2) 展開 資料から岡藤先生の思いや行動について確認し、考える。

教師：岡藤先生を知っていますか。

A児：知っている。『ふるさと美祿』に載っていた。

教師：岡藤先生はどんな思いで化石を掘っていたと思いますか。

F児：美祿でどんな化石が掘れるか知りたい。

H児：自分の発見で化石研究に貢献したい。

教師：岡藤先生のどこが特にすごいですか。自分の考えを付箋で上から順に並べてみましょう。

I児：10万点以上の化石を発掘した集中力・根気強さが一番すごいと思う。

K児：高校の先生の仕事とこれだけの研究を両立したことがすごいと思う。

Y児：研究のために、貴重なものをただであげるのところがすごいと思う。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

電子黒板で資料を提示して読み聞かせることで、岡藤五郎の人となりや功績を捉えやすくした上で、「みんなちがってみんないい」のモデル事例から抽出した岡藤先生のすごさが感じられる行為を、付箋を用いて自分の考えを並べさせることで、今の自分もつ価値観を表出させる。それを班や全体で見合わせながら、どんな理由からその並びにしたかを話し合わせることで、様々な価値観があることを感じさせる。また、「これらの行為をした岡藤先生は、自分のやりたいことにどれくらいの思いをもっていたらだろうか。」と問うことで、導入の自分たちの夢への思いと比較させて、終末につなげる。

(3) 終末 これまでの自分を振り返り、これからの自分について考える。

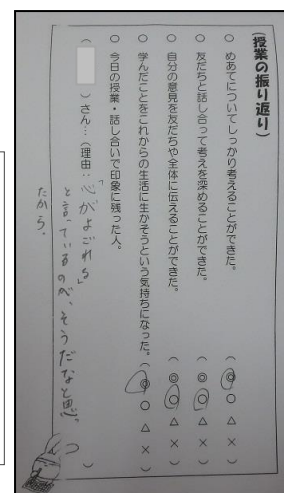
教師：これまでの自分を振り返って、これからの自分を考えてみよう。
 A児：サッカー選手になりたいという気持ちは強いけれど、そこまでの努力はしていないので、これからは岡藤先生のように続けて努力したい。
 F児：岡藤先生のように両立できるようになりたいです。Eさんの話を聞いて、先生と研究を両立していたことが本当にすごいことだなと感じたので、自分もやりたいことと、やらないといけないことをがんばりたいです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

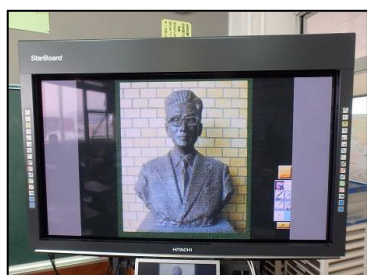
自分を振り返らせ、夢をもち、その実現に向けて強い意志をもつことの大切さを感じさせる。また、本資料が「みんなちがってみんないい」という山口県の資料であることや、「ふるさと美祢」（出典：美祢市教育委員会）や「きらり山口人物伝 Vol.5」（出典（財）山口県ひとづくり財団）を紹介し、自分たちが住んでいるところで様々な活躍をした先人から、自分の夢の実現に向けて学べることを考えさせる。

3 評価について

- ・班での意見交流や全体の中での発言から、様々な価値観があることを感じていたり、自分の価値観と友達の価値観を比較しながら考えていたりしたかという観点で、授業中の観察やワークシートの記述から見取る。
- ・授業前の自分の考えと、授業を終えての自分の考えが変容したか、また、友達のよさを感じられたか、感想の記述や発言から見取る。



4 実践を振り返って



「みんなちがってみんないい」には、身近な資料が教材として掲載されており、実物投影機で提示したり、拡大コピーして配付したり、詩を朗読したりして活用している。学年配当はあるが、資料吟味がしやすく、どの学年にも応用可能である。画像やワークシートの電子データが付属していると加工が可能となり、より活用しやすくなると思われる。

道徳で活用する ～希望と勇気、努力と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- 藤岡市助の生き方にふれ、諦めずに取り組むことの大切さに気づき、それを基に自分の成長への願いや思いについての考えを深める。
- 目標達成に向けて、具体的にどのようなことが必要であるかを考える。

2 授業の実際

1 主題名 目標に向かって努力する

「(資料名)『藤岡市助物語』日本のエジソン」

2 ねらい

藤岡市助の白熱電球を作る際の苦労や努力について話し合うことを通して、目標に向かって努力し続けることを大切にしていこうとする心情を養う。

3 展開

(1) 導入 できるようになりたいことについて考える

教師：できるようになりたいことはありますか。それができるようになるためにどのくらい頑張っていますか。

A児：水泳で25メートル泳げるようになりたい。100点満点でいえば、今の頑張りは70点ぐらい。たまに、やりたくなくなることがあるから。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
自分の経験や生活について想起し、学習の見通しをもたせ、自分自身の問題として受け止めながら学習を進められるようにする。

(2) 展開 「藤岡市助物語」を読んで話し合う。

教師：市助は、白熱電球を作っているとき、どんな気持ちだったろう。

A児：目盛りでいうと、真ん中より少し右ぐらい。絶対完成させたいと思っているけど、悪く言われることはいやだったと思う。

B児：目盛りの右側。悪くいわれても、上手くいなくても、「負けるものか。」と思ってあきらめなかったと思う。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・住んでいる地域の偉人を扱い、実物や写真も提示することで、資料の内容を身近に感じ、共感的に考えられるようにする。
 - ・目盛り(左側：悲しい顔、右側：明るい顔)を用いて気持ちを表したり、ペアで意見交換をしたりし、児童一人ひとりが主体的に考え、発言できるようにする。

(3) 終末 自分ができるようになりたいことについて再考する。

教師： 目標を達成するためにがんばりたいこと、やろうと思ったことはありますか。

A児： あきらめずにがんばりたい。私は自分のことだけ考えていたけど、市助さんのように、みんなのためにがんばることも見付けたいと思った。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・ 導入と展開の板書を振り返り、「目標を達成したいという気持ちを持ち努力している」という、市助と自分の共通点に気付かせるとともに、展開で市助について考えたことを自分自身のこととして捉え直し、今後の生き方について願いや思いをもつことができるようにする。

3 評価について

導入において自分ができるようになりたいことについて考えて記述し、終末において再度同じ観点で考え記述することを通して、展開部でいかに道徳的価値の理解を深め、自分自身の問題として捉えることができたか、見取ることができるようにした。

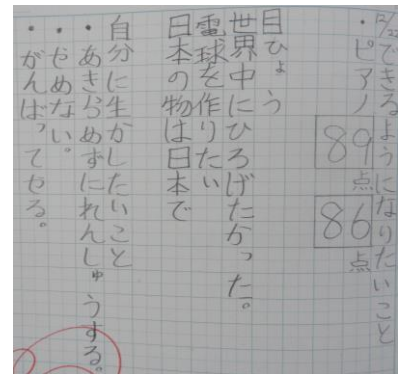
また、ノートや目盛りを活用し、視覚的に児童の考えや考えの変化が把握できるようにした。

4 実践を振り返って

自分たちの生まれ育った地域の偉人に関する資料を扱うことで、児童はその業績や生き方に大変興味をもち、意欲的に授業に参加することができた。また、郷土の偉人について知ること、郷土への誇りや愛着を感じ、市助の生き方について多角的に考えることができた。

市助のような偉業を成し遂げることは自分自身の問題として捉えることが難しい児童もいたが、導入時に自分ができるようになりたいことを考えたことで、目標を持っているという自分と市助の共通点を見出し、自分の生き方について考えを深めることができた。

資料を通して捉えた道徳的価値をいかに自分自身の問題として受け止めさせ、成長への願いや思いに結び付けていくか、その過程を教師がどのように見取り、評価していくかが、今後の大きな課題であり、今後も研修や実践を通して学んでいく必要があると感じた。



道徳の時間で活用する ～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度～

1 本授業におけるポイント

- 授業前に赤間硯についての参考資料を読み、まとめることで、赤間硯のよさや硯作りの大変さなどに共感できるようにする。
- 赤間硯を作り続ける日枝さんの思いについて、グループで話し合うことで、「赤間硯を未来へ残したい」「お世話になった人へ恩返しをしたい」など様々な思いに気付くことができるようにする。
- 授業の終末で、光市出身の重要無形文化財保持者である山本晃さんを紹介することで、自分たちの身近にある守り続けたいものに目を向けることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 誇りをもって仕事に打ち込む「(資料名)硯の里に生まれて」

2 ねらい

赤間硯にかける日枝さんの思いを話し合うことを通して、伝統を守り引き継いでいこうとする気持ちに気づき、ふるさとに古くから伝わるものに目を向けて、大切にしていこうとする心情を養う。

3 展開

(1) 導入

教師：赤間硯や赤間硯作りについて知っていることは何ですか。

A児：一つひとつ手作業で作るから、時間と労力がかかるよ。

B児：原料をとるのに命がけだよ。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

「みんなちがってみんないい」P83～84の資料や参考資料を事前に読ませることで赤間硯の良さや硯作りの大変さなどについて感じるができるようにする。

(2) 展開

教師：日枝さんに仕事を決意させたものは何でしょうか。

A児：赤間硯を作るお父さんの存在。

B児 地域にのこる赤間硯を守りたいという気持ち。

教師：日枝さんはどんな思いで赤間硯を作り続けているのでしょうか。

A児：赤間硯をずっと守り続けたい。
B児：硯のおかげで自分があるから、自分も何か恩返しをしたい。
C児：いい硯を作ってお客さんに喜んでほしい。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
日枝さんの赤間硯を作ることへのためらいや葛藤を引き出すことで、赤間硯を作ろうと決心した日枝さんのすばらしさに気付くことができるようにする。
赤間硯を作り続ける日枝さんの思いについて、グループで意見交流をする中で、「グループで出た日枝さんの思いの中で一番強い思いはどれですか。」と補助発問を行うことで、友達の考えと自分の考えを比較し、より深い思いに気付くことができるようにする。

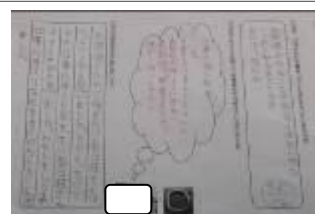
(3) 終末

教師：日枝さんの生き方についてどう思いますか。
A児：赤間硯作りに誇りをもっている日枝さんは素敵だと思いました。
B児：私たちの住む山口県の伝統を後世に残そうとしている方々の思いが分かりました。私もその思いを引き継いでいきたいです。
教師：自分たちにも大人になっても守り続けたいものはありますか。
A児：学校の花壇。
B児：夏休みにある盆踊り。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
授業の終末で、光市出身の重要無形文化財保持者である山本晃さんについて紹介したり、「自分たちにも大人になっても守り続けたいものはあるか」と、質問したりすることで、自分たちが住む光市にもすごい技術をもっている人がいることや身近にある大切なものに気付くことができるようにする。

3 評価について

評価は、子どもの発言やワークシートから見取るようにした。意見交流をすることで赤間硯を作り続ける思いの多様さに気付くことができたり、自分の考えを深めたりすることができた。ワークシートを用いることで、ふるさとに古くから伝わるものに目を向けていこうとする児童を見取ることができた。



4 実践を振り返って

導入で「みんなちがってみんないい」の参考資料を活用することで、本時の学びに対して主体的に取り組むことができた。資料を通して、友達の多様な考えを知り、自分の考えを深めたり広げたりすること、ふるさとの伝統について再確認することができた。



道徳で活用する ～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度～

1 本授業におけるポイント

- 自分たちのふるさとに関心をもたせるために導入の工夫をする（伝統的工芸品についての説明、赤間硯の実物と作っている人の顔写真の提示等）。
- 日枝さんの生き方を自分事として考えることができる発問の工夫をする。
- 心情や実践意欲を高めるために終末の工夫をする（龍舞に対する思い）。

2 授業の実際

- 1 主題名 ふるさとの伝統や文化を守る 「(資料名) 硯の里に生まれて」
- 2 ねらい

赤間硯作りの道で努力する日枝さんの思いを話し合うことで、自分たちのふるさとを誇りに思い、伝統を大切に守っていこうとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 赤間硯の実物を見て、郷土にある伝統的工芸品に関心をもつ

教師：赤間硯を見たことがありますか。伝統的工芸品の一つです。

A児：普通の硯と比べて、色や形が違うし、ずっしりと重いね。高級そう。

B児：この近くで伝統的工芸品が作られているなんてすごい。

教師：日枝さんがどんな思いで赤間硯を作っているか考えていきましょう。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
赤間硯の実物を子どもたち一人ひとりに触れさせる。貴重なものであると感じ取ることができるように箱に入れて風呂敷に包んだものを提示した。



(2) 展開 資料を通して、ふるさとの伝統を守ることのよさに気付く

教師：自分が日枝さんの立場だったら、どうしますか。

A児：難しい赤間硯作りが自分にできるかどうか分からないから、継がない。

B児：赤間硯はなくなってほしくない。魅力が分かったら継ぐかも知れない。

教師：それでも日枝さんが後を継ごうと思ったのはどんな気持ちからでしょう。

C児：親が一生懸命作っている姿をずっと見てきた、自分も後世に残したい。

D児：ポジティブに考えて、お客さんに喜んでもらえるものが作りたい。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
赤間硯づくりの後継者不足の問題やたいへんさを理解した上で、自分事として考えることができるように発問し、自分の立場を明確にして話し合う。

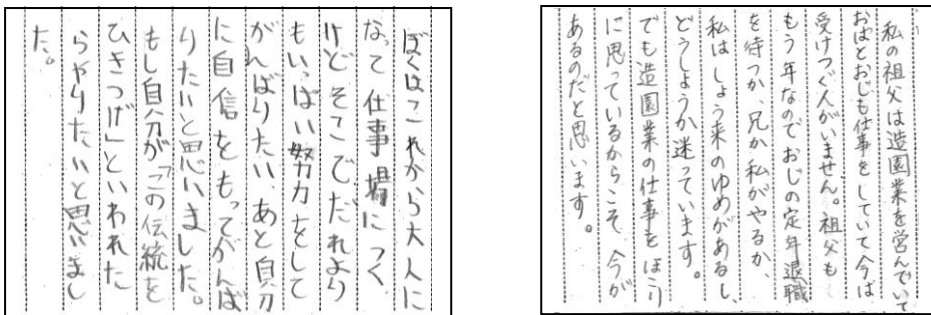
(3) 終末 自分の生き方について考える

教師：日枝さんの生き方からどんなことを学びましたか。
 A児：大変なことが多い赤間硯作りの道を選んだのもすごいけど、さらに上をめざして研究しているところがかっこいい。自分は初め、「継ぎたくない」のところだけど、「継ぐ」の方に近付いた。
 B児：もしも、自分にもそういうことがあったら前向きに受け継いでいきたいと思った。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 日枝さんの生き方を資料から学び、自分の生き方を考えさせたい。また、自分たちが地域の祭りや学習発表会などで龍舞を披露していることも、ふるさとの伝統文化の大切な継承であることを価値付け再認識させたい。

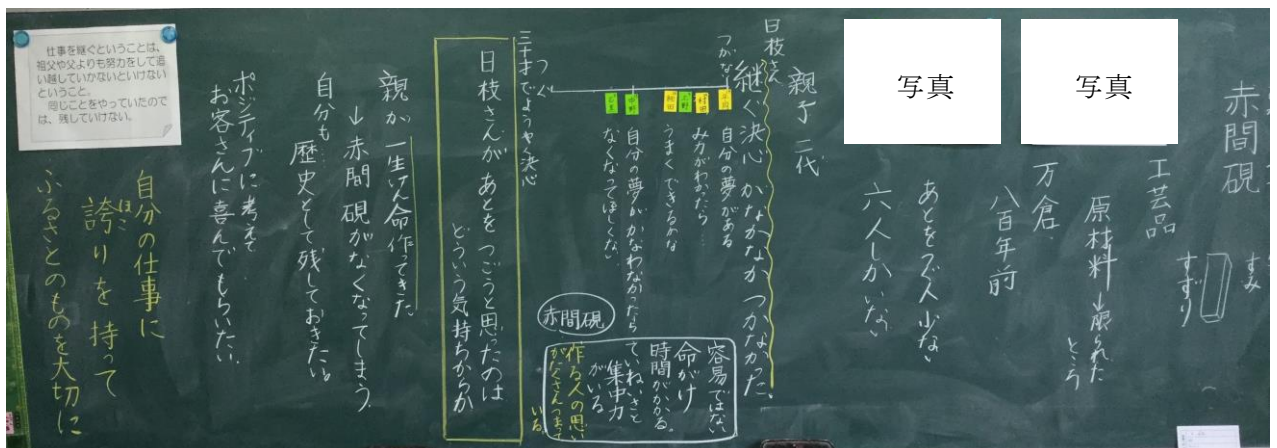
3 評価について

授業中の発言や話し合いの様子、ワークシート等により評価する。



4 実践を振り返って

社会科で学習した、新幹線の車両の先端部分を手作業で作っている人たちのことともつながって、後継者の問題や様々な苦労がある中で誇りをもって働いている人の生き方を身近に学ぶことができた。そして、自分はどんな生き方をしたいかを考えることができた。また、自分たちのふるさとにはすてきな宝があり、自分たちもそのふるさとを守っていききたいという気持ちになれたと思う。



道徳の時間で活用する ～希望と勇気、努力と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- 導入で自分の夢や目標を付箋に書いて机に貼る。授業の最後に班の友達にメッセージを書いてもらう時間をとる。→意欲化
- サッカーを始めて練習に没頭し、目標を達成するまでの岩政選手の思いが視覚的に見て分かりやすいように、心情を曲線で表す。→視覚化
- 岩政選手の心情を円グラフで表し、様々な感情を抱きながらも努力し続ける心の強さに気付くことができるようにする。→自己の経験との重ね合わせ

2 授業の実際

1 主題名 夢に向かって「(資料名)岩政大樹『20回のリフティング』」

2 ねらい

失敗しても練習し続ける岩政選手の思いについて話し合うことを通して、自分の目標に向かって努力しようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 自分の夢や目標の再確認をする

教師：今、みんなには夢や目標がありますか。

A児：野球選手になりたい。

B児：入院した時に優しくしてもらったから、看護師になりたい。

C児：おもちゃが好きだから、会社員になって、子どもが喜ぶおもちゃを作りたい。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

発問後、自分の将来の夢とそう思うようになったきっかけを書く活動を入れた。付箋に書いて机に貼った。授業中、目に入る位置に置いておくことで、岩政選手の夢について考えながらも自分事として考えることができるようにした。また、授業の最後に班の友達にメッセージを書いてもらえるようにし、意欲化を図る。

(2) 展開 失敗しても練習し続ける岩政選手の思いに触れる

教師：合格して帰っていく友達を横目で見ながら、必死でリフティングを繰り返す岩政少年の心には、どんな思いがあったのでしょうか。

A児：疲れた、もうやめたい。ぼくにはできないという思いがあったはず。

B児：頑張って上手になりたいという気持ちが大きいはず。

C児：早く帰りたいという気持ちもあるけど、できない自分に腹が立って、絶対レギュラーを取ってやるという気持ちがあったんじゃないかな。

教師：心配してくれる母の声もぼくには届かなかったのはなぜでしょうか。

A児：集中していたからだと思う。

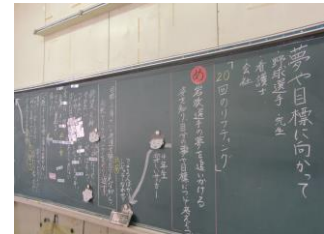
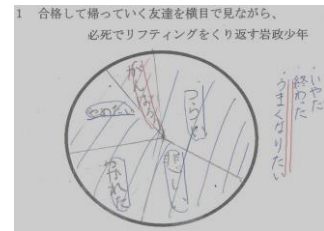
B児：練習をやめたら今までの努力が水の泡だから頑張ろうと思ったんだよ。

C児：今まで応援してくれた家族のためにも絶対できるようになって喜ばせたいと思ったら、お母さんの声が聞こえないくらいやり続けられたんじゃないかな。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

失敗しても練習し続けることができる理由を話し合う際、岩政選手の気持ちを円グラフで表す活動を入れた。様々な感情があり、葛藤しながらも練習を続けていることに気付くことができるようにした。そして、きつくても頑張り続けた過去の自分と重ね合わせて考えられるようにした。

また、岩政選手の感情を曲線で表した。プラスの感情・マイナスの感情の葛藤の中で頑張り続けていることが視覚的に分かるように工夫した。ネームプレートを活用し、自分だったらどの辺に位置するかも考えたことで、より自分事として話し合いに参加することができるよう配慮した。



(3) 終末 自己の生き方を見つめ直す

教師：今までの自分を振り返りながら、今、自分が思っていることを教えてください。

A児：ぼくはそろばんを辞めようとしたことが何度もあった。でも、岩政選手のようにあきらめずに頑張っていた。やり続けてよかったと、今、思う。

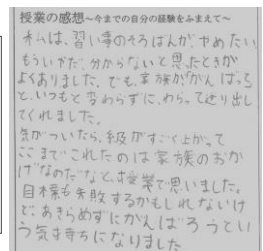
B児：私は、自分の夢をやめようかなと思っていました。でも、今日の授業で最後までやりきってみようかな・・・という思いが出てきました。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

資料から離れ、自分の今までの経験を振り返ることができるよう、「今までの自分を振り返りながら」という言葉をワークシートに入れた。自己の生き方を振り返る記述や、将来の夢をあきらめずに頑張りたいという決意が多くあった。本書の「自分へメッセージ」というところを活用し、友達からメッセージをもらう活動を入れたことは、意欲化にもつながり、よかったと思う。

3 評価について

発表とワークシートの「授業の感想」で評価した。毎回、授業の最後は必ず自分の経験を振り返りながら主題についての思いをまとめる時間を設けている。今回は夢・目標という、自分の経験と関連させやすい内容であったため、振り返りの内容も充実していた。



4 実践を振り返って

山口県出身で、努力して夢を叶えたプロサッカー選手の話は、子どもたちにとって身近に感じられるものであった。また、共感できる辛さや悔しさ、頑張ろうと思う気持ちが文章に込められていたため、自分自身への励ましと感じられたようである。本書には、具体的な展開例が掲載されている。これを参考にして、目の前の子どもたちの反応を予想した上で発問や話し合う方法を工夫することができた。今後ふるさとから学び、自分の生き方について考えることのできる「みんなちがってみんないい」を活用した道徳の授業を展開したい。

道徳の時間で活用する
～生命の尊さ～

1 本授業におけるポイント

- 日野原先生が山口市出身というだけでも身近に感じられる資料である。
 - だれもが感じている「いのちは大切」であるということ、日野原先生の言葉「いのちは使える時間」と関連付けて考えられるよう授業構成を工夫した。
- ※ なお、「いのち」を他者との関わりでも考えることができるよう、事前に、他者との関わりについて考える学習（いじめ・人権等）を設定した。

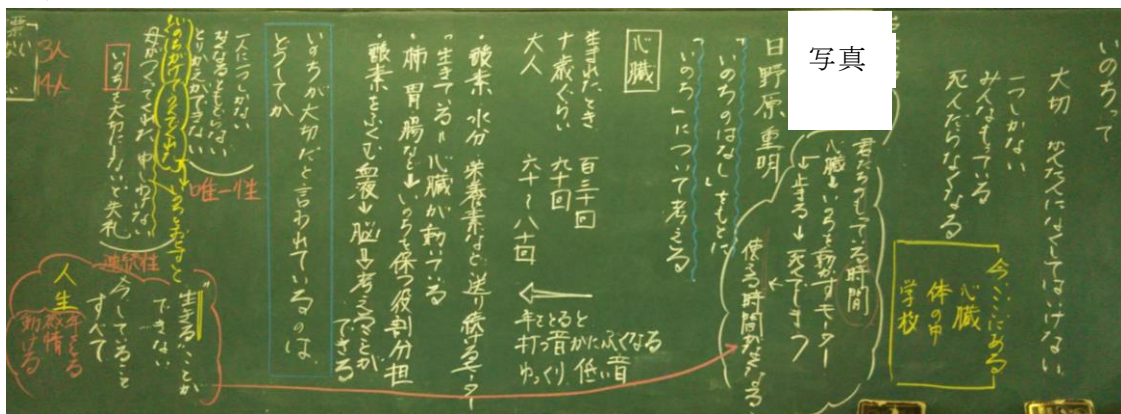
2 授業の実際

1 主題名 いのちとは？「（資料名）いのちのはなし」

2 ねらい

「いのち」についての話やいのちの大切さを話し合う活動を通して、いのちはかけがえのないもの（連続性・唯一性・体の働き・心の働き）であることを理解し、自他のいのちを大切にしていこうとする心情を養う。

3 展開



(1) 導入 いのちとは「一つしかない」「死んだらなくなる」

教師：いのちとは、どんなものだと思いますか。
 A児：簡単になくしてはいけない。最近、自殺のニュースが多いので。
 B児：死んだらなくなってしまうもの。
 教師：では、そのいのちは、どこにあるの？
 児童：今、ここにある。体の中や心臓。学校にあるよ。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 「いのちのはなし」には、「体の働き」としてのいのちと「心の働き」としてのいのちに触れている。その両方の発言を導入時に引き出せるよう、発問を「いのちとはどんなものか。」「いのちはどこにあるのか。」とした。

(2) 展開 いのちとは生きること。生きるとは、今、していること全て。

教師：いのちが大切だと言われているのはどうしてだと思いますか。

C児：なくなると、取り返しがつかない。

A児：いのちがけで産んでくれた母がつくってくれたいのちだから。

D児：そのいのちを落とすと、生きることができない。

教師：では、生きるとは何をすることなの？

児童：今、していること全て。歩く。息をする。年をとる。感情を出す。人生。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
P 7「心臓の動きの説明」P 6「日野原先生の言われていること」を読み聞かせながら、発問について考える手がかりを板書した。また、発問に対する考えの中から、日野原先生の言葉「いのちは使える時間」につなぐことができる言葉（この授業では「生きる」）について問い返し、具体を引き出せるようにした。

(3) 終末 お互いによりよくするためにどうすればいいか、考える。

教師：日野原先生は「いのちは使える時間」と言っています。あなたは今後、いのちをどのように使っていきますか。

E児：私はやりたいことはやる、言いたいことは言う。でも、他の人のやりたいこと、言いたいことも聞く。お互いによりよくするためにどうすればいいか考え、自分で後悔のないように生きる！！（ワークシートより）

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「あなたたちが考えたいのちを、日野原先生は『使える時間』だとおっしゃっています。」と、子どもたちの見出したいのちの大切さを、日野原先生の言葉に矢印でつなぎ、発問について考える手がかりとした。

3 評価について

評価方法 ワークシート、プリントファイルを用いたポートフォリオ評価

● 評価の視点

- ・「いのちはかけがえのないもの」という道徳的価値の理解を深めている
- ・他者との関わりの中で、自分のいのちについて捉え直すことができている

● 具体的な姿（ワークシート、F児の記述より）

ぼくは、いのちは生きる事と生きる事につなげたいと思いました。生活の中で苦しい事や悲しい事もあるけれど、それを乗り越えてこそ人生を楽しめるのだなと思いました。

4 実践を振り返って

児童にとって“山口県出身”ということで、自分とのつながりを感じ、親近感をもって学習に取り組むことができた。また、事前学習（いじめ・人権）が、他者との関わりを意識をうみ、子どもたちは特に「いのちは使える時間。死んでしまうと使える時間がなくなる。」という言葉に重みを感じている様子が伺えた。卒業を意識する6年生が、“いのち”を視点に自分自身を見つめ直すことができる大変意義深い資料である。

道徳の時間で活用する ～生命の尊さ～

1 本授業におけるポイント

- 山口県内の中学生に関する資料や「私たちの道徳」を活用し、生命の有限性や尊さについて考えさせ、かけがえのない生命を尊重する心情を育てる。
- 話し合い活動を通して、自分と違う考え方や感じ方にふれ、生命について多面的・多角的に捉えながら深く考えさせる。

2 授業の実際

1 主題名 精一杯生きる

「(資料名) 有国遊雲『みんなありがとう。ぼくは往きます』」

2 ねらい

自らの命と向き合った遊雲君について話し合うことを通して、周りの人々の支えに感謝し、辛いことから逃げずに、限りある自分の命を精一杯生きようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 資料を読んで、印象に残ったことを発表する。

教師：有国遊雲君に関する新聞記事を読んで、印象に残ったところはどこですか。

生徒：「お母さん、ありがとう。みんなにもありがとうって言ってね。」その夜「ぼくは往きます。」と、最期の言葉が周囲への感謝だったところ。

生徒：出口と思ってドアを開けたら、まだ道がある。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等資料を範読する時、印象に残ったところに線を引かせる。その後、ワークシートに書かせて発表させる。それぞれが印象に残ったところを発表させ、どの意見も認める。

(2) 展開 有国遊雲君の闘病生活をおさえながら遊雲君の気持ちを考え、遊雲君の気持ちについて考える。

教師：「出口と思ってドアを開けたら、まだ道がある。」と言った遊雲君は、どんな気持ちだったのでしょうか。

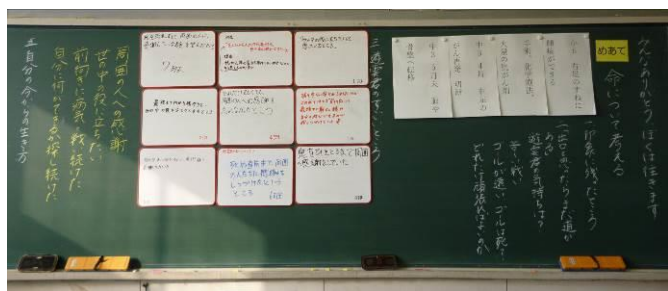
生徒：苦しい戦いだ。

生徒：まだまだゴールが遠い。ゴールは死なのか。

生徒：手術をしたら治ると思って手術をしても、まだ治らない。どんどん転移して治らない。どれだけ頑張ればいいのか。

教師：遊雲君のすごいところはどこでしょうか。なぜ、そこがすごいと思いますか。

生徒：支えてくれた人に何が返せるかと、世の中の役に立とうとするところ。抗がん剤の副作用は辛いはずなのに、そう思えるのがすごいから。



生徒：息をひきとるまで、周囲へ感謝をしていたところ。

生徒：残り少ない命かもしれないけれど、前を向いて戦い続け、自分に何ができるのか探し続けている姿。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
遊雲君のがんと闘いを短冊にし、黒板に貼りながら説明を加え、闘病生活について確認する。参考資料「有国遊雲君と小児がんの3年」も説明し、辛い闘病生活の中での遊雲君の気持ちを考えられるようにする。

遊雲君のすごいところについては、個人でワークシートに記入した後、3～4名の小グループで話し合う場を設ける。そして、グループで出た意見をホワイトボードに記入し、黒板に貼る。

(3) 終末 これからの自分の生き方について考える。

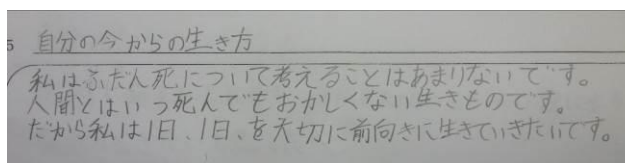
教師： 「私たちの道徳」P.100の「いつか終わりがあること」を範読する。
今日の学習を通して、これからの自分の生き方について考えたことを書きましょう。

生徒： 絶対に命をむだにせず、1日1日を大切に生き、人の役に立ちながら生きたいと思った。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「私たちの道徳」P.100を読み、生命の有限性について理解させる。遊雲君の生き方を学習し、自分の今後の生き方について考えたことをワークシートに書かせる。

3 評価について

ワークシートの最後に自分の今後の生き方について書かせた。この欄から、生徒が道徳的価値の理解を自分自身のこととして捉え、深めていることが把握できた。



4 実践を振り返って

生徒は、山口県内の同じ中学生の人生について考えることにより、自分の人生と重ね合わせ、生命について深く考えられたようだ。遊雲君が、がんと闘いながらも周囲への感謝の気持ちや前向きな強い心をもっていったことに感銘を受け、生徒は自らもかけがえのない生命を輝かせたいという思いをもつことができた。

道徳の授業で活用する ～生命の尊さ・よりよく生きる喜び～

1 本授業におけるポイント

- 主人公やそれを支える家族の気持ちや心の葛藤を考える活動を通して、自分事として捉え、これからの自分自身の生き方について考える。
- 主人公のすごさについて考える活動を通して、よりよく生きるための価値を深めていく。

2 授業の実際

1 主題名 精一杯生きる

「(資料名) 有国遊雲『みんなありがとう。ぼくは往きます』」

2 ねらい

自らの命と向き合った遊雲君の気持ちを話し合う活動を通して、周りの人々の支えに感謝し、辛いことから逃げずに、限りある自分の命を精一杯生きようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 資料の印象に残ったことを発表し合う。

教師：資料を読んで、印象に残ったことを伝え合いましょう。
A児：転移が見付かった時、人目もはばからずに泣いたこと。
B児：若くして亡くなったこと。
C児：最期に死ぬときに感謝の言葉を言って死んだこと。
D児：人の役に立とうと抗がん剤の治験をしたこと。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

余命を告げられた家族や本人が苦しみながら病気を受け入れていく実話の資料は、大変印象的で、読むだけで心を打たれるものがある。同年代の、がんと向き合った生き様を描いた資料だからこそ、身近に感じより深く心に刻まれるものとする。そこで、資料を読む前に自分自身を振り返り、自らの命の使い方を問う発問を加えるとよい。自分がどのくらい“生きる”ことを意識して生活しているか、「あなたは今、どんな命の使い方をしているか」という発問である。その後、資料を読むと生命の価値について深く感じ取ることができる。

(2) 展開 遊雲君の気持ちを考え、遊雲君のすごさは何かを考える。

教師：「出口と思ってドアを開けたら、まだ道がある。」と言った遊雲君は、どんな気持ちだったのでしょうか。
A児：もう終わりと思っていたのに、また繰り返すのか絶望的な気持ち。
B児：こんなに辛い思いをしたのに、まだ辛い思いが続くのか不安な気持ち。
C児：もうだめなのかと、諦めの気持ち。

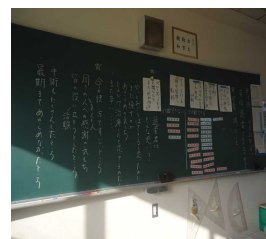
教師：遊雲君のすごいところはどこでしょうか。

A児：最期に周りの人へ感謝の気持ちを伝えていたところ。

B児：最期まで諦めなかったところ。

C児：皆の役に立てるように治験に取り組んだところ。

D児：病気に前向きに向き合い、治療を頑張ったところ。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
遊雲君の闘病の様子を板書しながら、「自分だったらどうするか」と問いかけ、場面ごとに考えさせながら、展開の発問を行っていく。特に右足を切断した場面では、「自分だったら切断できるか」と問いかけ、できる・できないとネームカードなどで意志決定をしたり、理由を伝え合う場面を設けたりするとよい。病気と向き合い、命ある限り精一杯に生きる強さにも触れるとよい。

(3) 終末 授業を振り返り、自分の今からの生き方について考えたことを書く。

教師：「遊雲君の生き方を通して、これからの自分はどのように生きていけばよいか」感じたことや考えたことを書きましょう。

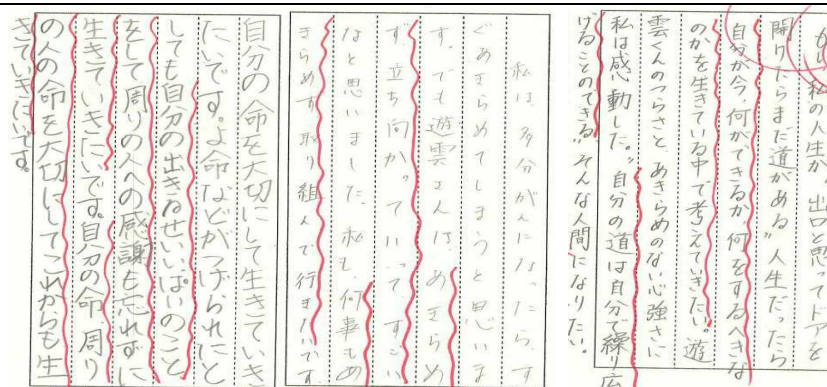
A児：命を大切に、一日一日を大切に生きていきたい。

B児：少しでも誰かの役にたてるように努力したい。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
可能な限り自分の生き方を見つめるために時間を割いて、振り返りを書かせたい。

3 評価について

“生命の大切さ”や“生きること”の価値について、自分事として捉えているか、そして、これからの生き方に学びをどのようにつなげていきたいか、自分なりの考えが書かれてあるかを見取る。



4 実践を振り返って

地域に実在した人物、そして中学生にとって同年代の人物の実話ということもあり、生徒にとって大変身近に感じることでできる教材だった。資料を通して、生命の大切さ・尊さを再認識すると同時に、自身の命に向き合い、生き方を考えていくことができた。また、遊雲君の最期の感謝の言葉に感銘を受けた生徒の感想も多かった。

道徳の時間で活用する ～向上心、個性の伸長～

1 本授業におけるポイント

- 自分自身の問題としてとらえさせる。
キャリア学習に重点を置いて取り組んでいる時期に合わせることで、自己を見つめ、夢や目標を描き、それに向かって自分らしい生き方を追い求めようとする態度を育てる一助とする。
- ふるさと山口にゆかりのある人物に興味をもたせる。
山口県出身のメダリストの存在を知り、その功績や生き方に触れさせる。また、ゆかりの陸上競技大会や記念樹の存在を身近に感じさせる。
- 他の意見に学ぶ態度を養う。
自分の考えを表現し、自分とは異なる感じ方や考え方などの意見の交流を経て考察させることで、様々な視点で物事を捉える態度を養う。

2 授業の実際

1 主題名 向上心、個性の伸長

「資料名 田島直人『根性の記録 おれでもやれる』」

2 ねらい

夢や目標の実現に向けて自分に合った努力をし、個性を伸ばして充実した生き方を求めようとする道徳的心情を育む。

3 展開

(1) 導入 田島直人さんについて知る。

教師：山口県出身のメダリストを知っているか。

A児：卓球の石川佳純さん。

B児：柔道の大野選手。

教師：メダリスト田島直人さんの紹介をする。

C児：名前だけは聞いたことがあるなあ。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
田島直人氏のプロフィール（資料1）や「第14回田島直人記念陸上競技大会」のポスターなどを用いて紹介する。また、時代背景や中学時代は無名の選手であったが、オリンピックでの優勝を夢見ていたことにも触れておく。夢を思い描くことやその夢を実現するための道のりなど、キャリア学習で学習した内容を思い出させる。

(2) 展開 田島直人さんの不断の努力や「周到的準備」について話し合う。

教師：田島さんが金メダルを獲得できた最大の理由は何だろうか。

A児：たくさん練習して、負けない気持ちで挑んだこと。

B児：自分はやれるという自信があったから。

C児：日本の代表としての責任感がとても強かった。

D児：日々の練習と周囲からの応援。



「継続力」「努力」「計画力」「精神力」「行動力」「全力」
「自分を信じる力」「向上しようとする力」 など。

教師：田島さんはオリンピックに向けてどんな準備をしたのだろうか。

生徒たちに予想させた上で、「周到的準備」（資料2）を紹介する。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
個人で考える時間、その後に班で考え、ホワイトボードにまとめる時間を十分に確保し、発表の際には、「〇〇力」という項目を生徒たちに考えさせた。

(3) 終末 田島直人さんの生き方を自分の生活に照らし合わせる。

教師：「田島さんの言葉（資料3）を読んで、田島さんの生き方から学んだことや印象に残ったことを発表しよう。」

生徒A：「これからどうやって生きていくか、自分で目標を立て自分で準備をすることが大事だと今日初めて考えさせられた。こつこつ準備をして達成感を味わってみたい。」

生徒B：「夢をもつことができれば、叶えようとするので、成長できる。」

生徒C：「テニスで一番になるのは無理だろうと思うのではなく、自分から積極的に取り組み、夢や継続力をもってペアと頑張っていきたい。」

生徒D：「私は試合の時、勝つことだけを目的にしてきたけど、田島さんは人一倍の努力が目的だと言っている。『勝利の喜びは努力の過程にある。』と言っていて、すごいなあと思った。」

3 評価について

「勝利の喜びは努力の過程にある」という田島氏の言葉（資料3）は、素質ありきで、テストの結果や部活動の勝ちにこだわる結果主義の生徒に新たな視点を与えることができたと感じた。スポーツに限らず、それぞれの夢の実現に向かう「努力の過程」に価値を見出し、今の自分に必要な努力を探ろうとする生徒の意見を認め、励まし、勇気付ける声かけや評価を行った。

4 実践を振り返って

考えの根拠を生む問いのための十分な資料の提示とはいかなかったが、テストや部活動の勝敗に一喜一憂する生徒の実態や発達の段階と合っていて、生徒は自分に置き換えて考えていた。また、他の教育活動に関連付けた実践は効果的であった。

道徳の時間で活用する ～希望と勇気、克己と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- テレビCMを見せることで、道下選手の走る様子や表情を生徒に分かりやすく示した。
- 自分たちが現在、「困難」と感じていることを挙げ、道下選手の「困難」を知り、世の中には大変な困難を抱えながらも、前向きに生きようと努力し続ける人がいることに気付かせた。

2 授業の実際

1 主題名 困難に立ち向かう「(資料名)道下さんの生き方」

2 ねらい

道下選手の生き方を知ることを通して、自分が困難な場面に遭遇しても、前向きに頑張ろうと努力する態度を養う。

3 展開

(1) 導入 道下選手が抱える困難に気付く。

教師：今週末に下関海響マラソンが開催されますが、この写真の方を知っていますか。
(道下美里さんの写真を提示する。)

A 児：下関出身のマラソン選手。

B 児：道下さん。

教師：そうです。マラソン選手の道下美里さんですね。
下関海響マラソンにも出場されます。
次に道下さんが出演されているテレビCMを見てください。

□ 指導上の留意点

テレビCMを見せることで、道下選手のことを知らない生徒にも、道下選手が抱えている困難に気付かせる。

(2) 展開 困難を抱えていても走り続ける道下選手の気持ちを考える。

教師：マラソン選手といっても、道下さんは大変な困難を抱えた選手です。
今のCMを見て、道下さんがどのような困難を抱えているか、気付きましたか。

C 児：道下さんの隣に一緒に走る人がいました。

D 児：目が不自由という困難です。

教師：そうです。道下さんは目が不自由だという大変な困難を抱えています
が、具体的にはどのような困難が考えられますか。

E 児：人とぶつかってしまう。
 F 児：誰かが一緒にいないと走れない。
 G 児：料理や車の運転をすることができない。
 教 師：CMで見た道下さんはどんな様子でしたか。
 H 児：笑顔だった。
 I 児：楽しそうだった。
 教 師：では、道下さんが目が不自由ながらも走り続ける理由は何だと思いま
 すか。まずは自分の考えを書きましょう。

□ 指導上の留意点

個人の意見を記入させ、班で意見を交流させる。その後、班ごとに出た意見をホワイトボードに記入させ、発表させる。



(3) 終末 道下選手の生き方に学んだことを書く。

教 師：みんなの意見から気付いたことはありますか。
 生徒J：マラソンは道下さんにとって生きがいだと思う。
 生徒K：道下さんが走ることで、勇気付けられる人がいる。

□ 指導上の留意点・支援

道下選手は自身の困難に対して悲観することなく、マラソンに挑戦してパラリンピックで銀メダルを獲得した。その姿が同じような困難を抱える人々に勇気と希望を与え続けていることに気付かせたい。また、自分が困難な場面に遭遇しても、前向きに頑張ろうとする姿勢が大切であることを確認する。

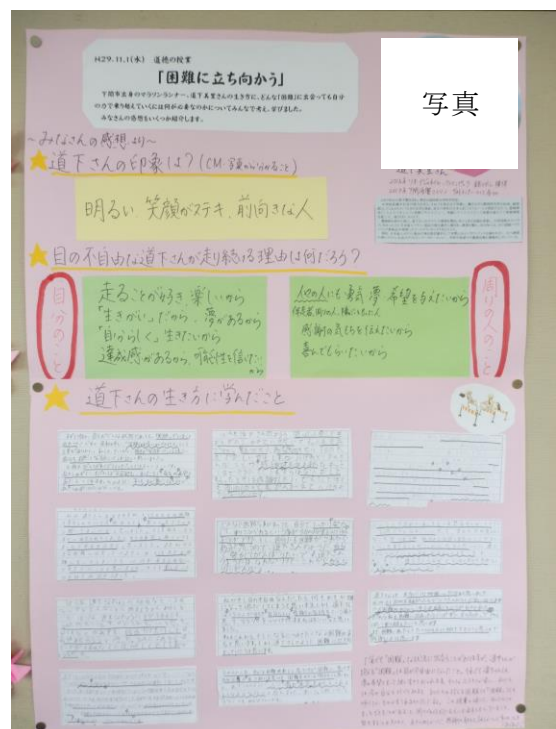
3 評価について

道徳の時間にどのような内容の授業が行われたのか、振り返りができるように発問や生徒の意見をまとめ、廊下に掲示している。
 あわせて、生徒の感想も掲示することで、意見の共有も図っている。

4 実践を振り返って

週末に下関海響マラソンが開催される時期に、昨年度行われたリオデジャネイロパラリンピックで銀メダルを獲得された、下関市出身のマラソン選手である道下選手を取り上げたこともあり、生徒の関心はより高まったように思う。

生徒が身近に感じるができるふるさと教材として、この事例集は有効であると考えます。



道徳で活用する ～向上心、個性の伸長～

1 本授業におけるポイント

- 「考える道徳」「議論する道徳」への質的な転換が重視されていることからグループ活動を取り入れ、できるだけ多くの考えに触れさせるようにする。
- グループ活動では他者の考えを大切に聞き、参考にしながら自分の考えを形成していくようにする。

2 授業の実際

- 1 主題名 熱意と努力「(資料名)田島直人「根性の記録 おれでもやれる」」
- 2 ねらい
自己の可能性を伸ばし、人生を切りひらいていく実践意欲をもたせる。
- 3 展開

(1) 導入 「田島直人」について理解する

教師：プロフィールを提示する。

生徒：黙読し、印象に残ったことをワークシートに記入する。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等全体を一読させ、以下の点に特に着目させる。

- ・岩国市出身であること
- ・中学時代は全国的に無名の選手であったこと
- ・ベルリンオリンピックに出場して三段跳びで金メダル、走り幅跳びで銅メダルを獲得したこと
- ・現在も「田島直人記念陸上競技大会」が開催されていること

(2) 展開 目標を達成するために必要なものは何だろう

教師：資料2「田島直人さんの周到な準備」を提示し、4つの準備についてグループでキーワードを考えさせる。

生徒：「体力強化」「工夫」「メンタルトレーニング」「対応力」

教師：4つの準備のキーワードで大切なものの順位を考える。まずは個人で考えた後、学習班(3～4人)のグループでまとめる。また、一番大切なものを選んだ理由を考え、ホワイトボードにまとめて黒板に貼り発表する。

生徒：グループごとに議論して結論を出し、ホワイトボードに理由を付けて黒板に掲示して発表する。

生徒：個人的な考えをワークシートにまとめて記入する。

教師：数人に発表させる。

教師：資料3「田島直人さんの言葉」を提示し、「周到な準備」を支え続け、夢を叶えるために必要なものをキーワードで簡単に確認する。

生徒：「努力」「忍耐」「工夫」「熱意」

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「考え、議論する」ことに重点をおくために、グループによる資料2の順位付けと理由を考えることに十分に時間をとるようにする。また、グループ内では自分の考えを主張するだけでなく、他者の考えに十分尊重するよう指示する。

(3) 終末 田島直人の思いにふれ感想を記述する。

教師：「田島直人」の生き方について学んだことについて感想を書かせる。
生徒：(感想の記述)

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
感想については残り時間に応じて数人に発表させる。発表できなかった感想については、できるだけ多くの考えに触れることが大切なことから、掲示や学年だより等で公開する。

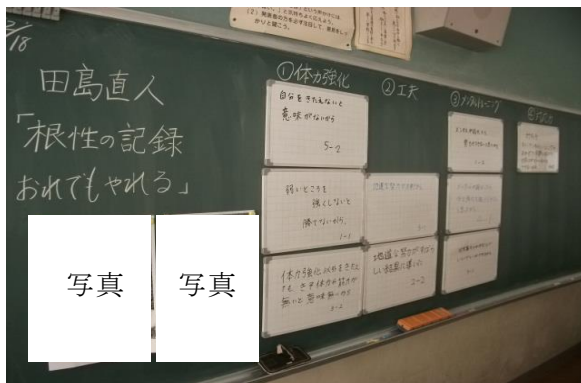
3 評価について

- ・グループ活動では、巡視しながらできるだけ多くの生徒の発言を聞き取る。
- ・生徒一人ひとりについては、感想を含めたワークシートを回収して評価を行い、生徒にメッセージを添えて返却する。

4 実践を振り返って

2学年は3クラスあるが、全ての学級の実態に応じて改善を図りながら実践した。1時間目のクラスでは個人で1番に選んだものについて、ネームプレートを黒板に貼ることで意思表示をすることを試みた。その結果、全体的には時間不足で終盤が駆け足で説明するようになり、全体の感想が宿題となった。このことから、次に行うクラスからは個人の考えをネームプレートで黒板に貼ることを省略し、グループ内での話合いに十分な時間をかけるようにした。グループ内での大切なものの順位付けでは、どのクラスも概ね活発な議論が展開されており、他の生徒の考えを尊重する姿勢もうかがえた。多くの価値観に触れることができた結果、初発の考えから変容した生徒もいた。

今後も「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて研究を重ね、よりよい方策を模索していきたい。



道徳ワークシート (2)年()組()番 氏名()

田島直人「根性の記録 おれでもやれる」

1 プロフィールを読んで、印象に残ったことをメモしよう。

おれはバレーボール、中学時代、無名の選手
岩田中学校、岩田高校、山梨大学

2 「田島直人さんの勇烈な準備」を読み、4つの準備について、グループでキーワードでまとめ、大切と思う順位をつけよう。

① 体力強化	順位 1	② 工夫	順位 3
③ メンタルトレーニング	順位 2	④ 対応力	順位 4

3 グループ内で4つの準備で大切と思う順番に順位をつけ、1番に選んだものの理由を考えよう。

1番 体力強化	2番 メンタルトレーニング
3番 工夫	4番 対応力

体力強化 を1番にした理由は・・・
体力が無いと勝負 にならないから。

4 他のグループの発表を聞き、あなた自身は何が1番大切だと思いますか。

私は 体力強化 が1番大切だと思います。なぜならば、メンタルもすごく大切でメンタルが強くないと卓球では、メンタル負けをすることがあります。メンタルが弱い人は体力をたくさんつけて、試合に臨まずに、試合にならないと思うからです。メンタルはなかなか強くしようと思っても自分の気持ちの問題だから、体力はトレーニングをすれば体力がつくから。

道徳の時間で活用する ～希望と勇気、克己と強い意志～

1 本場面におけるポイント

- ブラインド・ウォークを行うことで視覚障害を迫体験するとともに介助者との信頼関係の深さを実感させる。
- 道下さんの可能性を信じる周囲の人々の思いを考えることで多角的・多面的に物事を捉えさせる。
- 本人が困難を乗り越えて強く生きる力をもっており、それが周囲の信頼に繋がっていることを認識させ、それを自分事として捉えさせる。

2 授業の実際

1 主題名 困難に立ち向かう「(資料名)道下美里さんの生き方」

2 ねらい

道下さんの生き方を通して、目標を設定し、その達成をめざし希望と勇気を持ち、周囲の支えの中で困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる心情を養う。

3 展開

(1) 導入 ブラインド・ウォークを通して視覚障害を迫体験する。

教師：実際、ブラインド・ウォークをしてみて、どんな気持ちになりましたか。

生徒：前が見えないと、何があるか分からないので不安になった。ぶつかりそうで怖かった。介助してくれた人が誘導してくれたのでそこまで不安がなかった。介助者を信用していないと恐ろしい。

教師：介助をした人はどんな気持ちになりましたか。

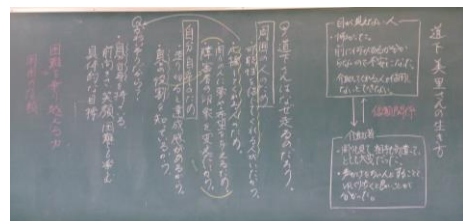
生徒：周りも見えないといけないし、誘導もしないといけないのでとても難しかった。(視覚障害者の)どこを持って誘導すればいいか分からなかった。丁寧な言葉かけと、ゆっくり前を歩いて誘導すればいいことが分かった。

教師：もし自分が、突然目が見えなくなったら、どんな気持ちになりますか。

生徒：焦ってパニックになる。絶望的。不安と恐怖でいっぱいになる。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

ブラインド・ウォークを通し、道下さんの視覚障害を迫体験する。それとともに、介助者の立場にもなることで、する側・される側のお互いの信頼関係によって成り立っていることに気付かせる。



(2) 展開 なぜ、道下さんは困難な状況でも走るのか考える。

教師：道下さんはなぜ困難な状況でも走り続けるのでしょうか。

生徒：可能性を信じてくれた陸上の先生や応援してくれた人のためにも走らなければと思ったから。周囲の人に希望を与えたかったから。頑張ればできることが分かったし、ゴールした達成感があるから。失明をして、自分の役割を知ったから。

教師：周囲の人はなぜ、道下さんの夢を支えてくれているのでしょうか。

生徒：道下さんは視覚障害者なのに頑張っているから。

教師：周囲の人は、道下さん进行かかわいそうだと思っているのでしょうか。

生徒：視覚障害は関係ない。道下さんのマラソンを一生懸命する姿を見たから。彼女は困難でも笑顔で楽しむような前向きさがあったから。彼女は具体的な目標を掲げて努力していたから。自分の役割を果たそうとしているから。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
- ・道下さんのCMを視聴させ、親近感をもたせるとともに略歴を紹介する。
- ・資料3を読み、なぜ彼女は走り続けるのかを考える。発表をする中で周囲のためという意見と自分自身のためという意見が出るので、板書を用いて構造化する。
- ・意見交換を通して道下さんをサポートする人々の思いを多面的に捉えさせ、困難を乗り越える力こそが人からの信頼を得ることに気付かせる。

(3) 終末 自分に置き換えることで、本時を振り返る。

教師：困難にぶつかることは皆さんにもある。そんなとき、皆さんはどうするでしょう。今日の授業を振り返って感じたことを書きましょう。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
- 道下さんの例が他人事にならないよう、自分に置き換えて考えるよう促す。自分たちに起こる困難や失敗をどう乗り越えるか考え、道下さんから学んだことを振り返らせる。

3 評価について

- ・ワークシートの中に印象に残った友人の発言の記入欄を設け、多面的・多角的見方へ発展しているか見取る。
- ・ワークシートの振り返りの欄で現在の自分自身を振り返り、自らの行動を見直しているか注目する。



4 実践を振り返って

今回、道下美里さんの生き方を通して、困難を乗り越える勇気や強い意志の重要性に焦点をあてた。ともすれば「自分にはできないこと」と他人事になりがちな話題ではあるが、生徒は周囲の支えがあること、その支えは本人の思いによるところが大きいことに気付いていた。今後も生徒自身が自分事として捉えることができるよう発問等を精選していきたい。

道徳の時間に活用する ～思いやり、感謝～

1 本授業におけるポイント

- 金子みすゞの「星とたんぽぽ」(小学校高学年)を資料として扱い、身近な生活の中にある「見えない思い」を探すことで、周りの人々の思いやりに気付き、感謝の心を育てる。
- 班での話し合い活動を行い、身の周りにはある人々のふだんは見えない思いやりについて考える。活動を通して自分の考えを周りの人に伝え、さらに考えを深める。
- 振り返りの場面で、自分や周りの気付きや言葉をシートに書き込み、今後の生活につなげる。これを一年次からのファイルに蓄積し、成長の振り返りと評価の参考にする。

2 授業の実際

1 主題名 「見えないもの」を感じる「(資料名)星とたんぽぽ」

2 ねらい

金子みすゞの詩と身近な生活の中にある「見えない思い」を関連付け、今までの自分の在り方や考え方を見つめ直すことで、人の思いを大切にしながら生きていこうとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 「星とたんぽぽ」を読み、本時の授業の方向をつかむ。

教師：「星とたんぽぽ」の詩を読んで、「見えぬけれどももあるんだよ 見えぬものでもあるんだよ」のところから、身の周りにはある見えないものを感じてみよう。例えばみんなの「生活ノートの日課」と教室の「日課黒板の日課」。内容は同じだけど、違いは何だろう。

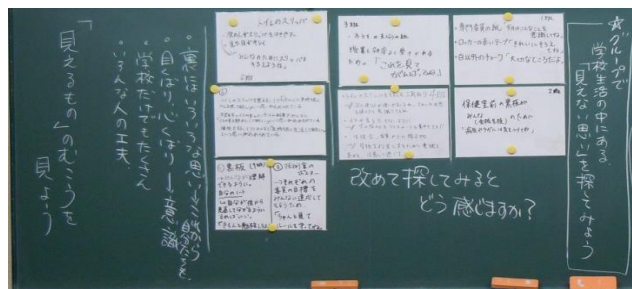
生徒：生活ノートは自分だけがみるもので日課黒板はみんなが見るもの。生活ノートは自分が忘れ物をしないように書くもの。日課黒板はみんなが分かりやすいように書くもの。生活ノートは自分のためのもの、日課黒板はみんなのためのもの など。

教師：日課黒板の後ろにある思いは何だろう。

生徒：みんなきちんと書こうね。みんな忘れ物しないでね、と言っている。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

身近にある日課黒板と生活ノートの日課を比べることで、改めてその目的を考えさせる。また、擬人化してセリフの形にすることで、黒板の後ろにある係の気遣いやこれまで気付かなかったみんなのための工夫に気付かせる。これらのことを班での意見交換や全体の話し合いの中で気付かせ、自分の言葉で表現させたい。

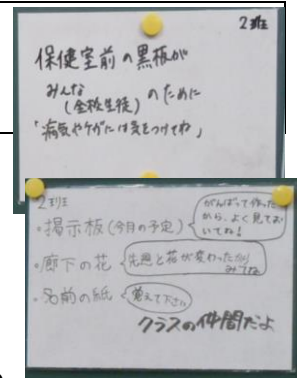


(2) 展開 身の周りにはある「見えない思い」を感じる

教師：学校生活の中には日課黒板のように当たり前のようにあるけれど、実はその後ろにはいろんな思いのあるものがたくさんあるのではないのでしょうか。その「見えない思い」をグループで探してみましょう。

生徒：毎月の専門委員会からの目標(今月はこういうことを意識してね)。廊下の花(落ち着

いて生活できますように)」「昇降口の校訓(こんな生徒にな
ってほしいな)。トイレのスリッパや三角折り(次の人が気持
ちよく使えますように)など。



□ 指導上の留意点・支援・活用のポイント等

自分の考えをまとめた後に、3～4人の班で意見交流を行っ
た。その活動の中で、ふだん何気なく生活している場所を改め
て見直すことで、多くの人がより良い生活のために様々な工夫
をしていることに気付かせたい。

(3) 終末 身の周りにある「見えない思い」について考える

教師：改めて探してみるとどう感じましたか。発表してみましょう。

生徒：金子みすゞの詩のように、見えないものに意味があると思った。

これからもっと気付きたい。そのためにも意識していないと気付けない

学校の中だけでもこんなにたくさんある、ということは学校の外にはもっとたくさ
んの思いがある。

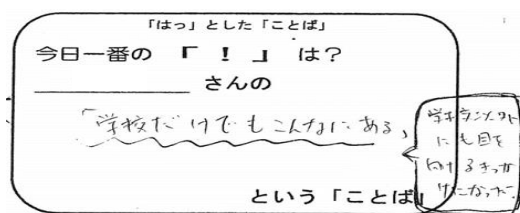
見えない思いに気付くことで、自分たちの生活が良いほうへ変わっていくのではないか
と思った。いろいろな思いの中で私たちは今生活しているのだ。もっと他にもあるたく
さんの思いを感じていきたい。そして自分も発信できるように考えてみたい。

誰かの努力や込められた思いは見えないことが多いのだなと感じた。いつもあるから当
たり前、と思うようなことでも自分ではない誰かのおかげで、当たり前になっているん
だなと改めて思った。など

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

身近な生活の「当たり前」は「当たり前」ではないことや、学校生活だけでなく、
校外の生活にもその多くの気づかひや陰の努力があることに気付かせ、感謝の気持ち
をもたせたい。また、実は自分もその一人であり、この学習によって周りの人が気付
いてくれることでの自己肯定感を高めさせたい。

3 評価について



道徳では毎回同じ様式のワークシートを使用し、そ
の中に「今日一番の『!』は」として、授業の中で自
分「はっ」としたり「なるほど」と思ったりした言
葉をメモし、それを書き込めるようにしている。

4 実践を振り返って

金子みすゞの詩を取り上げ、学校生活の中の「もの」にある「思い」を探すという具体的
な活動を行ったことで、生徒は身近にあるにもかかわらずこれまで見えていなかった人々の
気づかひや思いやりに気付き、具体的な生活場面を通して深く考えたことで、感謝の気持ち
をもつことができた。自分がやってきたことも認められてうれしい、これを機にもっと学校
の外でも気付きたい、やってみたい、など今後多くの実践につなげることのできる題材であ
ったと考える。また、対象学年の資料でなくても、生徒の実態に即したねらいをもって実践
することで効果も期待でき、今後も小中連携による資料や実践の交流を進めていきたい。

道徳の時間で活用する ～生命の尊さ・よりよく生きる喜び～

1 本授業におけるポイント

- 限りある自分の命を精一杯生きようとする大切さを実感することができる。
- つらいことから逃げず、あきらめることなく、前向きに生きる大切さを理解する。
- 周りの人々に支えられていることへの感謝の気持ちをもって生きる大切さに気付く。

2 授業の実際

1 主題名 精一杯生きる

「(資料名) 有国遊雲『みんなありがとう。ぼくは往きます。』」

2 ねらい

自らの命と向き合った遊雲君の生き方を話し合うことを通して、限りある自分の命を精一杯生きようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 遊雲君の句を紹介し、資料を読む。

教師：この句は君たちと同じ中学生が詠んだものです。この子はどんな子だと思いますか。

生徒A：自然が好きな、川でよく遊ぶ子だと思います。

生徒B：少し寂しい気持ちのある子だと思います。

教師：この句は、みんなと同じ山口県の中学生の遊雲君が詠んだ句です。遊雲君は小児がんで亡くなる前、闘病中にこの句を作りました。これから資料を読みながら、遊雲君の生き方を考えてみます。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「みんなちがってみんないい」の P21 に掲載されている遊雲君の句を板書し、この句が詠まれた背景を想像しながら資料を読む。また、生徒は保健体育科の授業において、中学生の死因の多くはがんであることを学んでおり、その学習内容にもふれることで、遊雲君の状況は誰にでも起こりうることであり、自分自身の問題として考えることができるように支援する。

(2) 展開 遊雲君の闘病の軌跡をたどり、遊雲君の言葉の意味や、生き方を考えさせる。

教師：闘病の苦しみから抜け出せないと思った遊雲君に、「支えてくれた人に何が返せるか。世の中の役に立ちたい。」と言わせたものは何でしょうか。

生徒A：残りの命を精一杯生き抜きたいという気持ちです。

生徒B：あきらめない前向きな心だと思います。

生徒C：今まで周りの人から支えられて幸せだったことに気付いたからです。

教師：絶望の中で、このように考えられる遊雲君の強さに感動します。限りある命を大切に生きた遊雲君に学ぶことがたくさんありましたね。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
資料の新聞記事の中の遊雲君の父の言葉を取り上げ、遊雲君が死を覚悟し、残された命をいかに生きたかを考えさせる。

(3) 終末 自分の限りある命をどう生きていくべきか考えさせる。

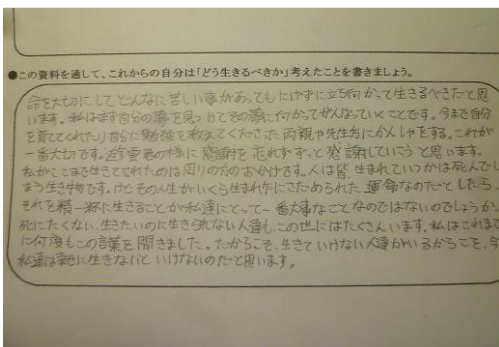
教師：生きるということは、いずれ死が訪れるということです。私たちの命にも限りがあります。みんなはその大事な命を、これからどのように生きていくべきでしょうか。

生徒A：人はみんな死んでいきます。それが運命だとしたら、精一杯生きることが私たちにとって一番大切なことです。命を大切に、自分を育ててくれた親や周りの人への感謝を忘れずに、どんな苦しいことがあっても逃げずに立ち向かって生きていきたいです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「これから自分はどう生きていきたいか」をワークシートに記述させる。

3 評価について

評価材料に、ワークシートの記述を活用する。また、生徒に本時の自分の授業への取組を数値で振り返らせ、授業評価の参考とする。本時の授業内での生徒の心の成長を捉えるため、グループ討議での発言や発表等も記録しておく。



4 実践を振り返って

この資料は、故郷である山口県の、自分たちと同じ中学生の実話であり、遊雲君のことを自分のこととして置き換えて考え、具体的にイメージして理解しやすいものである。本時の学習を通して、生徒たちは現在の自分を振り返り、これからの自分の生き方に重要な示唆を得ることができたと思われる。身近な地域や人物を取り上げた資料には力があり、有効な教材であると思われる。

道徳の時間で活用する ～郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度～

1 本授業におけるポイント

- 「和食文化の原点」ともいえるべき、日本各地に伝わる「郷土料理」に込められた地域の先人たちの思いを考える。
- 自分たちの身近な地域に存在する「郷土料理」や「地域の食材」の素晴らしさに気づき、それらに対する愛情を深める。
- 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に努めようとする態度を育てる。

2 授業の実際

- 1 主題名 家庭・地域のきずなを強める「郷土料理」
「(資料名) ユネスコ無形文化遺産『和食』」
- 2 ねらい 「郷土料理」に込められた先人たちの思いを感じ、地域の豊かな伝統と文化を積極的に継承していこうとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 ユネスコ無形文化遺産について知る。(パワーポイントを使用)

教師：「ユネスコ無形文化遺産」のことを知っていますか？(資料1を示す)
 「2016年11月現在で23件登録されています。(資料2を示す)
 「一覧表の一部に空欄がありますが、何が入ると思いますか。」
 生徒：「すし。」「天ぷら。」「和食。」
 教師：「正解。和食です。正確には、『和食：日本人の伝統的な食文化』です。」

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 P95の資料1、2をパワーポイントで示し、併せてヒントとなるような写
 真を美しい画像で見せることにより、和食の美しさを感じ取らせたい。
 また、次の展開においても、美しい和食の写真や栄養バランスのとれた和
 食等の写真をパワーポイントで示すと、生徒たちの考えようとする意欲や和
 食に対する関心が高まるだろうと思われる。

(2) ①展開前半 和食の特徴や和食文化について考える。

教師：『和食』が登録されたのには理由があります。なぜ、『和食』は登録された
 のでしょうか。『和食』のよさとは何でしょうか。
 生徒：長い歴史や伝統がある。
 生徒：自然の食材が活かされており、健康によ
 いから。
 生徒：見た目が美しく、味も美味しいから。
 教師：どれも正解です。それ以外にも年中行事
 とも密接に関わっていることも理由の一
 つです。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 まず、個人でしっかり考えさせる。そのあとグループになり、グループで意見交
 換させる。話し合う際には、一つにまとめる必要はないので、よいと思った意見は
 全て残しておくように伝える。

②展開後半 「郷土料理」に込められた思いを考える。

教師：『和食』の四つの特徴をよく表したものが『和食文化の原点』ともいうべき料理です。これらの料理は何でしょうか。

生徒：郷土料理です。

生徒：これらは私たちのふるさとの郷土料理です。知っていますか。



生徒：けんちょうです。いとこ煮です。ちしやなますです。

教師：（*それぞれの写真を見せ、料理や由来の紹介をする。）家庭や地域によりそれぞれの味があります。このように郷土料理は一度にたくさん作り大勢で食べたり、その土地独特の食材を用いて料理されたりします。郷土料理は、どのような意味をもつのだと思いますか。

生徒：家族や地域の人とのコミュニケーションが生まれる。

その土地でとれた食材に感謝し、そのよさを生かしてみんなで食べる。

家族や地域の人と思いを共有するもの。

教師：『郷土料理』は家族や地域で『食』を共にし、分け合うという思いが込められています。食を囲む人びとに共通の意味を感じさせるものであり、家族・地域のきずななのです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等「みんなちがってみんないい」では、郷土料理「大平」が紹介されているが、実際に授業する場合にはそれぞれの地域の郷土料理を紹介した方が、より郷土愛が深まるだろうと思われる。

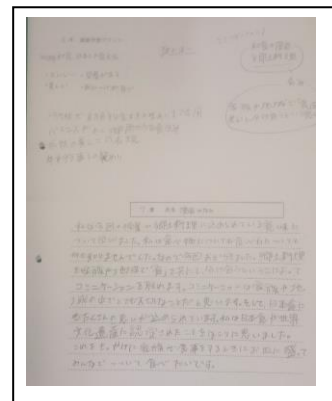
(3) 終末 授業を通して感じたこと、気付いたことを記入する。

教師：自然とともに暮らすことを選んだ日本人だからこそ、豊かな自然の恵みを生かした郷土料理が生まれたのでしょうか。そして、郷土料理はコミュニケーションに欠かせないものとなったのです。『郷土料理に込められた思い』という視点をふまえて授業の感想を書きましょう。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等郷土料理を受け継いできた先人の思いを受け取り、郷土を愛する気持ちをつづっていることを確認したい。

3 評価について

- 学習プリントには、発問ごとの個人の意見や思いを必ず記入するように促す。
- 終末の授業の感想において、本時のキーワードとなる言葉が現れているかどうかを確認し、赤鉛筆等でアンダーラインを引いておく。



4 実践を振り返って

多くの学校の給食で「郷土料理」を食べる日が設定されていると思うが、その直前に行うのが効果的だと考える。今回の授業は冬休み直前に行い、郷土料理以外におせち料理についても併せて短学活で紹介した。日本の料理に興味をもつきっかけとなってくれたらと思う。このように道德の授業を単発で行うのではなく、日常生活の営みと結び付けて効果的に行うことが生徒の心に響く道德の授業になると考える。

道徳の時間で活用する ～希望と勇気、克己と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- 資料から学んだことと自分を振り返って考えたことを「〇〇心」「〇〇力」という言葉で表現させることによって、ねらいを達成する。
- 友達との意見交換の中で、自分以外の価値観に触れさせる。

2 授業の実際

1 主題名 克己と強い意志

「(資料名) 田島直人『根性の記録 おれでもやれる』」

2 ねらい

より高い目標を設定し、その達成をめざし、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする実践意欲を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師： 「〇〇心」「〇〇力」という言葉の例をたくさん出してください。

A児： 「向上心」「競争心」「ライバル心」

B児： 「熱心」「野心」「強い心」「我慢する心」

C児： 「精神力」「忍耐力」「集中力」

D児： 「努力」「体力」

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
友達との情報交換を行い、できるだけ多くの例を発表できるようにさせる。

(2) 展開

教師： 田島直人さんが大切にした「〇〇心」「〇〇力」には、どんなものがありましたか。

A児： 強い心、忍耐力

B児： 我慢する心、継続力

C児： 粘り強い心、努力

D児： あきらめない心

E児： 練習熱心

F児： 信じる心



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・「きりり山口人物伝V o 1. 1」(山口県ひとづくり財団)の田島直人物語を朝読書の時間等であらかじめ読ませておく。
 - ・資料<田島直人さんの周到な準備>について、確認する。
 - ・考えた心と力について、その理由を明確にさせグループで話し合いをさせる。

(3) 終末

教師：田島直人さんの言葉（資料）を読み、「自分に必要な（伸ばしたい）心と力」について考えてみよう。

A児：「競争心」～部活内で女子がいないのもあるけど、周りと比べながら練習をするということがなかった気がします。みんなで切磋琢磨しながら全員で強くなりたいと思いました。

「継続力」～自分は継続させることが苦手で、諦めてしまいがちだから。

B児：「あきらめない心」～できないと思っても、それに立ち向かうことであきらめない心を強くできると思うから。

「忍耐力」～今、朝練でなるべく抜けないように頑張っています。そのためには忍耐力が必要だと思うから。

C児：「平常心」～練習ではうまくいくのに、試合になると場の空気にもまれて50%の力しか出せていなかったから。

「努力」～自己満足の努力ではなく、自分のための努力をしたい。楽なメニューだと勝てないので、人の三倍練習しないと上位に残れないから。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
 - ・資料<田島直人さんの言葉>を読ませ、参考にさせる。
 - ・田島直人さんも私たちも、人間として同じ心をもっていることを伝える。

3 評価について

- ・これからの自分に必要な（伸ばしたい）心と力をプリントに記述した内容から見取る。
- ・自分に必要な（伸ばしたい）心と力について、その理由を記述した内容から見取る。
- ・プリントに記述した内容について、友達に分かりやすく説明できたかを見取る。



4 実践を振り返って



- ・「〇〇心」「〇〇力」で考えさせたことは、生徒の思考を深める上で有効だったと感じた。
- ・心（志）がどのような力と結び付いていくのかを考えさせるまでには至らなかった。

- ・二か月後に立志式を迎える生徒にとって、今後の自分について考えるよい機会になったと思う。



道徳の時間で活用する ～生命の尊さ～

1 本授業におけるポイント

- 資料に出てきた自分と同じ歳の少年の最期の言葉と、自分自身の感じ方を比較することにより、その時間に学習した道徳的価値をはっきりさせる。

2 授業の実際

1 主題名 精一杯生きる 「(資料名)有国遊雲 『ありがとう。僕は往きます』」

2 ねらい

自らの命と向き合った遊雲くんの気持ちを推し量ることで、つらいことから逃げずに、限りある自分のいのちを精一杯生きようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 遊雲くんのことについて知る。

教師：今日は、小児がんと3年間向き合った山口県周南市出身の有国遊雲くんの記事を紹介し
ます。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

「ありがとう。僕は往きます。」という遊雲くんの最期の言葉を黒板に書き、「これはみんなと同じ15歳の少年の最期の言葉です。今日はいのちについて考えます。」とって資料を読む。

記事を読んだあと、遊雲くんのできごとについて簡単に教師が整理する。(小学校6年生の時にがんを発症。手術に科学療法、抗がん剤服用、右足切断など、3年間がんと闘ったすえ、「お母さん、ありがとう。みんなにもありがとうって言ってね。ぼくは往きます。」と言って息を引きとったことなど。)

(2) 展開前半 遊雲くんの気持ちを考える。

教師：遊雲くんはどんな思いで亡くなったのでしょうか。

生徒：もう少し長く生きたい。

生徒：両親や支えてくれた人への感謝の気持ち。

生徒：死にたくない。死ぬのが怖い。悔しい。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

生徒にとっては、「ありがとう」といった遊雲くんの最期の言葉が印象に残るため、大半の生徒が「感謝しながら亡くなった」、という遊雲くんの思いをあげがちである。しかし、「死」を受け入れるまでの苦しい道り、「出口とおもってドアを開けたら、まだ道がある。」という遊雲くんの言葉を紹介することで、「生きたかった、死にたくない。」という強い思いがあったことを推し量らせる。

(3) 展開後半 「死」が自分の大切にしているものや人とのお別れだということを実感する。

教師：① みんなにとって一番大切にしているものを五つだけ、カードに書いてください。

② 余命1か月であることを医師から宣告されとします。大切なもの五つのうち一つとお別れしなければなりません。一枚のカードを裏返してください。

余命3週間→一枚裏返す。余命2週間→一枚裏返す。余命1週間→一枚裏返す。

③ あなたの手元に残ったカードがあなたの一番大切にしているものです。でもいよいよ最期のときがやってきました。(最後のカードも裏返す。)

(4) 終末 授業の感想を書く。

教師：今日の授業で、考えたことを書きましょう。

生徒感想：遊雲くんは、15歳というまだ若い年で亡くなり、死ぬ時はどれだけ悲しかっただろうと思った。それなのに最後にみんなに「ありがとう。」と言っていて、強いなと思った。五つの紙に大切なものを書いて裏返す時、それと別れなければいけないと思うととても辛いし、悲しい気持ちだった。今は、その大切なものがすぐそばにあるので、その時間を大切にしたいと思った。先生が言っていたように、人はいつか死んでしまう。だから、もっと今を大切に生きていたいと思う。そして自分の大切なものを大事にしていきたいと思う。

生徒感想：今日の授業で有国遊雲くんの気持ちをととても感じる事ができた。そして、死と向き合うということは、いろいろなものに別れをつけるということが理解できた。ぼくだったらあそこまでは前向きになれず、なかなか立ち直れないのではないかと思う。遊雲くんの最後までいろいろな人への感謝の気持ちを忘れないのはすごいことだなと思った。

生徒感想：普段、当たり前にあるものや周りの人の大切さがとても分かった。死ぬということはとても辛く、怖いものだけど、いつかは死がくるので、生きている今を大事にしたいと思った。いつ死ぬかはわからないけれど、死ぬまでにできることはしっかりやって、今、この時や大切な人、ものをもっと大切にしていきたい。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
授業の最後に数人の感想を全体の前で読んで聞かせる。
生徒の書いたカードは教師が回収し、次の命の授業をする際に活用する。

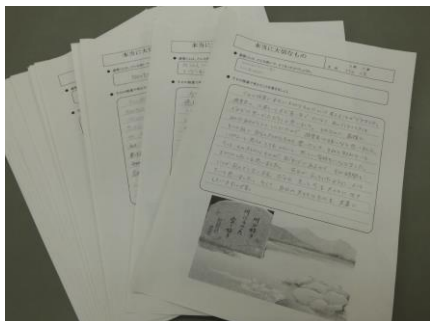
3 評価について

評価方法：生徒の感想文

◆感想の中に、限りある自分の命を自分自身のこととして捉え、道徳的価値の理解を深めているか。

(例) 今を大事に生きたい・遊雲くんのようにつよく生きたい・命を大切にしたい
一生懸命生きたい・あきらめずに生きたい

4 実践を振り返って



「いのち」の授業をする時に必ず使うのが、ある指導者の先生から教えていただいた、カードを使っての「大切なもののお別れ」である。ほとんどの生徒が五つのカードの中に、「家族」や「友達」、「命」を書く。ただカードを裏返すという行為だが、生徒にとっては家族と別れ、死と向き合う疑似体験となる。中学生にとって、かなり悩む場面となるが、中学3年生時に「いのちの尊さ」を深く考えさせるには、一番の教材だと考える。今回、「みんなちがってみんないい」の中の、自分と同じ年の少年の強い生き方を知ること、その効果がより一層高まったと感じる。

道徳の時間で活用する ～生命の尊さ～

1 本授業におけるポイント

- 発問に対して、自分の意見をまとめる。
中学生の時期は、まだ生命の有限性など考えることもないが、同年代の少年の実話をもとに、生きることの尊さに気付かせ、かけがえのない生命を尊重していこうとする自覚を深めさせる。
- 班で話し合い、意見交換をする。
班員それぞれの意見を聞き、自分の考えを深める。
- 班ごとに意見を発表する。
それぞれの班の意見を聞き、教師との対話によりさらに深める。

2 授業の実際

1 主題名 生命の尊さ

「(資料名) 有国遊雲『みんなありがとう。ぼくは往きます』」

2 ねらい

自らの命と向き合った遊雲くんの気持ちや言葉を考えることを通して、周りの人々の支えに感謝し、辛いことから逃げずに、限りある自分の命を精一杯生きようとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入 資料を読み、個人の考えをまとめる。

教師：『出口と思ってドアを開けたらまだ道がある』の『道』とは、どのような道だろう。

A児：細く暗い、険しくて長い道。

B児：がんと向き合うしかない道。

C児：ずっと続いている終わりのない道。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
遊雲くんが、その『道』から逃げ出さずに、しっかりと歩き続けようとしていることに気付かせる。

(2) 展開 中心発問について個人で考え、班で話し合い意見をまとめる。

教師：そのような境遇の中でも、遊雲くんに『ありがとう』と言わせたものは何だろう。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
自分自身の生き方、周囲の支え等様々な面から考えさせる。

(3) 終末 班の意見を発表し、教師との対話をしながらまとめていく。

A班：支えてくれた人への愛情と感謝→家族や医師が自分と向き合ってくれたこと

父親の様々な言葉がけ

B班：自分の人生→自分が病気から逃げずに向き合い、精一杯生きることができたこと

両親→最後まで一緒にいて見守ってくれたことへの感謝

C班：どんな時も一緒に支えてくれた人々への感謝→家族・友達・医師など

D班：家族へ→現実と希望を伝えてくれたこと、自分を生かしてくれたこと、

一緒に死について考え向き合ってくれたこと

周りの人へ→自分の気持ちに寄り添ってくれたこと、支えてくれたこと

E班：ありがとう→家族も苦しかっただろうに、支えてくれて

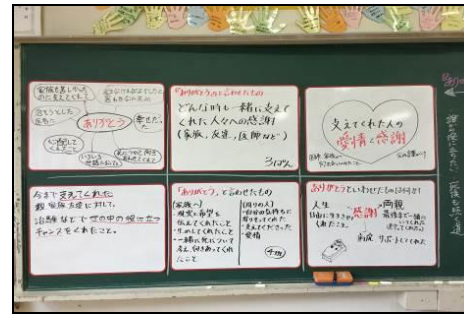
いろいろな人が心配してくれて世話をしてくれて

治すために色々な治療をしてくれた医師に

死についてしっかりと向き合わせてくれて幸せな人生だった

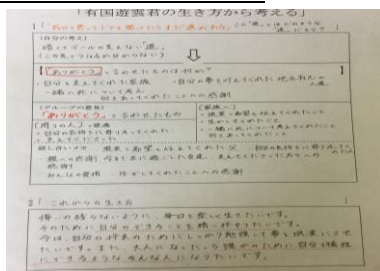
F班：周囲への感謝→これまで支えてくれた親・家族・友達に対して

自分の人生→治験などで世の中の役に立つチャンスを与えられたこと



教師：「これからの生き方」という題で感想を書きなさい。

3 評価について



「感想を書く」ことは、その時間の自らの学びを振り返ることにつながる。「本時のねらい」にどこまで迫ることができたのかを「書く」ことで「道徳的価値」を自分との関わりで捉えることもできる。しかし、この記述に対する「評価」が国語力や文章力の評価にならないように留意しなければならない。

4 実践を振り返って

「みんなちがってみんないい」掲載の新聞記事を読み物資料として授業を行った。遊雲くんが自分たちと同年代であることから資料に入りやすく、自分の生き方と周囲の人たちの支えの両面から生命の尊さについて考えることができた。

「これからの生き方」という題で書いた生徒の終末の感想を一部紹介する。

- 「生きる」ことは当たり前ではないと思った。生きていることに感謝したい。
- 時間を大切に、後悔しない生き方をしたい。
- どんな状況にある人でも、一日の価値に違いはないと思う。一日を大切にしたい。

道徳の時間で活用する ～感謝～

1 本授業におけるポイント

- 保護者・地域住民が授業に参加し、児童とともに意見を交流し合う活動を通して、児童に多面的、多角的な考え方に触れさせ、新たな視点から道徳的価値を見つめ直す場を設けた。（活用したページは P33、34）
- 中心場面の焦点化を図ることで、少しでも早く、資料から児童の実生活につなげ、保護者・地域の方と話し合う時間を十分に確保した。

2 授業の実際

1 主題名 ありがとうを伝えよう「（資料名）じぶんがしんごうきに」

2 ねらい

「ありがとう」の感謝の言葉は、相手も自分も心地よい気持ちになることに気付き、これから先、感謝の気持ちを言葉や態度で表そうとする実践意欲や態度を育てる。

3 展開

（1）導入 本時の学習課題をつかむ。

教師：見守り隊の方と一緒に登校している写真やアンケート結果（1日に何回ありがとうを言いますか等）を提示し、価値への方向付けを行った。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
アンケート結果などを提示しながら、家庭や学校に限らず、感謝の対象を幅広く考えさせることにより、価値への方向付けを行う。

だれに	回数	ありがとう
友達	2回 2人	一日に ありがとう を伝える
家づく先生	3回 5人	
同じよう校はみん	4回 3人	
バスのおもひき	5回 2人	
ボランティアの人		

（2）－1 展開前半 資料の範読を聞き、仲野さんの気持ちを考える。

教師：資料「じぶんがしんごうきに」（出典 東京書籍 道徳2）を範読した。

教師：仲野さんは、どうして交通整理をすることにしたの。

A児：小さな女の子が、トラックにはねられる事故を見たから。

B児：子どもを守るため。

教師：「もの好きな人がいるものだ。」と言われたとき、仲野さんはどんな気持ちがしたでしょうか。

A児：いやな気持ちになったが、子どもを守るためにがんばる。

教師：仲野さんが25年間も続けることができたのはなぜだと思う。

A児：「元気でやってください。」と応援してくれるようになったから。

B児：「ありがとう。」と声をかけてくれて、うれしくなって元気が出たから。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
役割演技を通して、感謝の言葉は相手も自分も心地よい気分になること
に気付かせ、実践意欲をかき立てる。

(2) - 2 展開後半 保護者・地域の方を交えて、グループで話し合う。

教師：「ありがとう」という言葉にはどんな力があるのかな。グループになって保
護者や地域の方と一緒に話し合ってみよう。

A児：言ってもらえると心が落ち着く。言った人も気持ちがいいと思うよ。

地域の方：「ありがとう」を聞くと元気が出るよ。子どもたちは、私たちの宝物です。

保護者：子どもの登下校時に、地域の方に見守っていただいて、ありがたいです。

安心して送り出せます。いつも感謝しています。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
地域・保護者の方には、事前に参加の依頼を文書で伝えた。その内容は、
気軽に参加していただきたいこと、資料のあらすじや、本時のねらい等を記
した。(P33の事前準備・P34の授業の実際を活用した。)

(3) 終末 グループの話し合いを全体に広げ、振り返りをする。

教師：おうちの方や地域の方と話し合って、どんなことが分かりましたか。

A児：「ありがとう」を言ってくれたら、うれしくなるんだなと気付きました。も
っと「ありがとう」を使いたくなりました。

B児：「ありがとう」は、やさしい力をもっていることが分かりました。私もたく
さん言いたいです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
自分をしっかりと見つめさせ、認め励まし、明日への課題等が実感できる
ようにした。

3 評価について

評価方法は、児童のつぶやきや発言内容と振り返りの記述内容である。記述内容は、
「ありがとうは、相手の人もうれしくなって、ぼくもうれしくなるから友だちになれ
る。」や「ありがとうは、人から人へつながるので、もっとつかいたいです。」等で、
道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていた。

4 実践を振り返って

保護者・地域参加型の道徳の授業を行
うに当たって、学校運営協議会での働き
かけ等の事前準備がとても参考になった。

今後も、地域ぐるみで、子どもたちの
道徳性を育てていきたい。



道徳の時間で活用する ～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度～

1 本授業におけるポイント

- 総合的な学習の時間に行った「ふるさと再発見」（地域の方たちと新庄地区の史跡を訪ね歩き、説明をしていただく体験学習）と関連を図った。
- 岩政次郎右衛門が登場する本校の校歌を取り上げ、歌詞にこめられた想いをすることで、新庄地区（新庄小学校）の一員であることに、より誇りがもてるようにした。

2 授業の実際

1 主題名 郷土のために

「（資料名）岩政次郎右衛門清信と長溝」

（出典「ほうじょうと土壌」日本土壌協会）」

2 ねらい

郷土に親しみをもち、郷土の一員として尽くそうとする心情を育てる。

3 展開

（1）導入

教師：この人はだれでしょう。（写真を見せる。）

A児：岩政次郎右衛門

教師：何をした人ですか？

B児：長溝をほった人

教師：社会科や総合的な学習の時間に長溝のことを勉強してきましたが、今日は岩政次郎右衛門がどんな思いで長溝をつくったのかを考えていきたいと思います。

□ 指導上の留意点・支援

これまで社会科や総合的な学習の時間に学習したことを想起させ、本時の内容との相違点を確認し、価値への方向付けをする。

（2）展開

教師：岩政次郎右衛門はどんな気持ちから、長溝をつくらうとしたのか。

C児：村の人たちを助けたい。新庄村を豊かにしたい。

教師：長溝をつくるため調査をする岩政次郎右衛門を村の人はどんな思いで見えていたか。

D児：仕事もせず、頭がおかしくなった。お手伝いしたい。

教師：岩国のお殿様から「失敗したら打ち首にする」と言われた時、岩政次郎右衛門はどんな気持ちだったのだろう。（ワークシートに記入）

E児：命をかけても、ぜったいに成功させたい。

F児：命をかけてでも新庄村を豊かにしたい。

G児：水をひかないと、みんながしあわせになれない。

教師：水が流れてきた時、村の人たちはどんな気持ちだったのだろう。

H児：ありがとう。ゆめのようだ。

教師：今も長溝を守ってくださっている方たちがいます。

<長溝水利組合長さんの願い>

長溝に流れる水を大切に使ってほしい。長溝を作った人たちの苦労があって、今の私たちの生活があることを感じてほしい。

□ 指導上の留意点・支援

岩政次郎右衛門の立場だけでなく、村の人たちの気持ちも考えさせ、その時の状況を多面的・多角的に捉えさせることで、岩政次郎右衛門の気持ちを考えやすくする。

「ふるさと再発見」の体験学習で自分たちが実際に長溝水利組合長さんから聞いた話を想起させる。長溝を守る人たちの願いを知ることで、「自分には何ができるか」につなげる。

(3) 終末

教師：これから自分たちは何ができるだろう。(岩政次郎右衛門への手紙を書く)

I児：新庄地区の一員として、春の「溝さらい」の活動に参加したいと思いました。

J児：今日、岩政次郎右衛門さんのことを勉強してやっぱりすごい人だなと思いました。新庄地区の一員として長溝をずっと大事にしたいなと思いました。

K児：ぼくは、できるだけ努力をして一生懸命頑張り、岩政次郎右衛門さんの行動や気持ちを受け継げるような人になりたいです。これまでずっとこの新庄地区を守ってきてくれてありがとうございます。

□ 指導上の留意点・支援

校歌の2番（岩政次郎右衛門の高徳と偉業をたたえながら、社会生活においてめざす姿を歌っている）の歌詞の内容について考えることで、新庄小学校の一員であることに誇りをもち、「自分には何ができるか」につなげる。

3 評価について

郷土で誇れるもの、それらを守るために力を尽くしている人々の存在に気づき、自分にもできることを考えることにより、自分自身との関わりで道徳的価値の理解を深めているか。（発言・ワークシート）

4 実践を振り返って

『みんなちがってみんないい』の「体験活動と関連付けた道徳教育展開例」（P16）を参考に授業づくりを行った。家庭・地域との連携、体験活動との関連を意識した授業づくりを行うことで、児童は、より岩政次郎右衛門や長溝に親しみをもち、「自分たちの住んでいる郷土のために役に立ちたい」という気持ちを育むことにつながったと思う。「家庭・地域と連携した取組に発展できないだろうか」、「体験活動と関連付けることはできないだろうか」という視点を常にもちながら児童の実態と授業づくりに向き合っていくことが大切だと思う。

道徳の時間で活用する ～希望と勇気、努力と強い意志～

1 本授業におけるポイント

- 「松陰読本」や「志ファイル」を活用し、道徳的価値の自覚を深める。
“志”をキーワードに松陰先生に関する資料やこれまでの自分の思いを振り返り、“志”に対する自分の思いをもつことができるようにする。
- 総合的な学習の時間と関連させ、道徳性の向上を図る。
総合的な学習の時間の単元「二分の一成人式を開こう」へつなげることで、目標を実現するために努力しようとする意欲を高める。

2 授業の実際

- 1 主題名 負け心 「(資料名) 松陰の修行」
(出典: “志” 吉田松陰の信念「みんなちがってみんないい」
「松陰の修行」(松陰読本) 萩市教育委員会)

- 2 ねらい

自分でやろうと決めた目標に向かい、強い志をもって、粘り強く努力しようとする態度を育てる。

- 3 展開

- (1) 導入 これまでの自分の「志」を振り返る。

教師: この朗唱を見て、気付いたことはありませんか。

A児: 3年生2学期の朗唱です。

B児: 何をやるにも目標を立てることが大切であるという意味でした。

C児: この朗唱の学習で、ぼくは、サッカー選手になるために毎日ドリブルの練習をすると決めました。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

「松陰先生のことば」として学習したことや自分の思い(志)を「志ファイル」をもとに振り返り、目標に向かって努力することの大切さは理解できても、実行することの難しさに気付かせ、自己を見つめる動機付けとする。

- (2) 展開前半 「松陰の修行」を読み、松陰先生の思いについて考える。

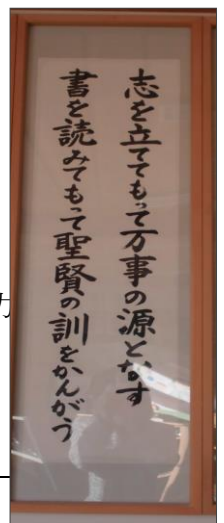
教師: 松陰先生は、なぜ大変な苦勞をしてまで日本全国を回って、修行をすることができたのでしょうか。

A児: 日本のため、人のためになると信じていたからです。

B児: やると決めたことはやらないといけないと思ったからです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

「松陰の修行」(松陰読本)を読み、松陰先生が数々の障害にも負けずに、自分の信念をより確かにするために諸国を修行していった姿から、正しいと信じたことをどこまでも貫いた松陰先生の思いに触れさせる。



(3) 展開後半 松陰先生のことばの意味を知り、考えたことを話し合う。

教師：松陰先生のことばの意味から、どんなことを思いましたか。」

A児：志とは、自分が何をすれば、一番世の中に役立てるかを考えることだと分かりました。

B児：今までは、自分のやりたいことが志だと思っていました。

C児：決めたことは、どんなに辛くてもやり抜くことが大事だと思いました。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「志を立て それを貫くことこそ 人間のもっともたいせつなこと」について書かれた資料（「みんなちがってみんないい」）を読ませ、志が将来の夢や目標と違うことに話合いを通して気付かせる。

(4) 終末 自分の志について振り返る。

教師：今日の学習から、自分の志についてどう思いますか。

A児：今までは、ただお医者さんになりたいと思っていたけれど、病気の人を助けるためになりたいと思いました。

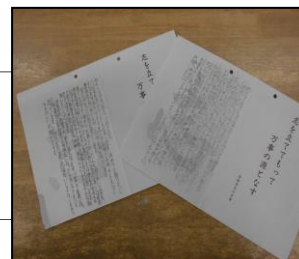
B児：今は、何になりたいのか、自分の志は何か分からないけれど決めたら、あきらめないでがんばりたいと思います。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
これまでの自分の考えていた志を松陰先生のことばをもとに振り返ることで、志に対する新たな思いをもたせたい。また、これまでの思いが今の自分の思いと違っていることに気付いた児童も認め、今後の学習につなげる。

3 評価について

本時においては、児童の発言が主な見取りとなるが、「志ファイル」に集積される児童の思いや道徳性に係る成長の様子を評価する。



4 実践を振り返って

本校は、学校経営の基盤の一つにキャリア教育の推進を掲げ、①松陰教学の推進 ②志教育の推進 ③ふるさと学習 をキャリア教育の3つの柱として日々の教育活動に取り組んでいる。

本実践では、松陰読本の「松陰の修行」と「みんなちがってみんないい」の“志”に関する資料を用いて、松陰先生のことばの“志”について知ること、これまでの自分の思い(志)を振り返るとともに、人のために、社会のためという視点で自分の思い(志)を見つめ直すようにした。児童は、3年生のときの自分を思い出すことから始め、本時で松陰先生のことばの意味と自分の思い(志)を重ね合わせることができたように思う。

本時は、総合的な学習の時間「二分の一成人式を開こう」と関連して行った。この単元では、自分の将来への思いを志シートに記入し、発表している。本時で見つめた思いが志シートの表現へ生かされているものが多く見られた。この志シートを含めた「志ファイル」は小学校6年間の“志”として中学校へとつながる。やがて、立志をむかえる彼らにとって、10歳の自分の思いが“志”について考える一助になればありがたい。

道徳の授業で活用する ～生命の尊さ～

1 本授業におけるポイント

- 考え議論する授業を組み立てる。
- 自分ならどうするか、という児童が主体的に考える発問をする。

2 授業の実際

1 主題名 自他の生命を尊重して

「(資料名) 人類愛の金メダル

(出典:「わたしたちの道徳」小学校5, 6年)」

2 ねらい

自他の生命を尊重できる心情を育てる。

3 展開

(1) 導入「人類愛の金メダル」の話を聞く。

教師：今から実際にあったお話を読みます。

※「わたしたちの道徳 小学校5, 6年」P99

教師：感想を、お隣同士で言い合ひましょう。

A児：感動する話でした。

B児：キエル兄弟はえらいと思いました。

C児：嵐はこわいけど、それでも助けたので立派だと思いました。

教師：四年に一度のオリンピックです。

その日にむけて、四年間練習するのです。毎日毎日練習するのです。

※実際のヨット練習のVTR(一分程度)を見せる。

どうして、ここまで練習を四年間するのですか？

D児：金メダルを取るためです。

教師：そうです。

メダルを取るために、四年間ずっと、このような激しい練習を続けるのです。

□ 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等

キエル兄弟が海に投げ飛ばされた選手を助けた「その日だけ」を扱うと、キエル兄弟の他者の生命尊重をより深く感じることはできない。

四年に一度のオリンピック、さらに毎日毎日続けた練習、この二つを児童に意識させた。

またヨット競技を知らない児童も多いと思い、VTRも見せた。児童にとって、ヨットは海の上でのんびりとしているイメージがあったようで、激しい動きに驚きの声があがっていた。

(2) 展開 自分ならどうするかを考える。

教師：みんななら、海に投げ出された選手を助けますか、助けませんか。
ノートに書きましょう。理由も書きましょう。

E児：（助ける意見）

ぼくはキエル兄弟のように助けます。なぜなら、その人が死んでしまったら、仮に金メダルを取っても、後悔するからです。

F児：（助けない意見）

四年間あんなに厳しい練習をしたのだから、金メダルをやはり僕なら取りたいです。自分が助けるのではなくて、ヨット競技の係の人がいるはずだから、その人に連絡すればいいです。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
児童は「他の生命」と「四年間の練習」を比較して議論していた。その際、教師はどちらか一方の意見に賛同したり批判したりしないよう、静かに議論を見守った。

(3) 終末 有国遊雲君の新聞記事を聞く。

教師：次の新聞記事があります。みんなと同じ山口県で生まれた子どもです。

※「みんなちがってみんないい 第Ⅱ集」P23の新聞記事

教師：キエル兄弟、そして有国君から、自分の今からの生き方について考えたことを書きましょう。

G児：自分の夢も大切です。そして同時に自分の命も他の人の命も大切です。実際にキエル兄弟のような場面になったら私はどうするか分かりません。ただ、自分の命も人の命も大切にしようと思いました。

H児：私は将来、医師になりたいと思っています。キエル兄弟とは違うけど、人の命を救うという意味では同じことだなあと思いました。

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「みんなちがってみんないい 第Ⅱ集」の有国君の資料は、力のある資料である。読むだけで、児童の心に響く資料である。そこで、教師が不必要なことを言わず、ただ読み聞かせた。

3 評価について

評価方法（発表、ノート）

授業後、児童全員のノートを教師が確認し、またコメントを書いた。また、学級通信で児童の感想を保護者に紹介し、道徳教育の中で家庭と連携して生命尊重の心情を育てられるようにした。

4 実践を振り返って

「みんなちがってみんないい」の有国君の資料は、同じ山口県、同じ子ども、ということ児童にとって親近感がわいたようである。それゆえに、有国君の人生、言葉一つ一つに、感動したようであった。力のある資料を終末に用いたことで、より自他の生命を尊重する心情が深まったように感じる。

道徳の時間で活用する ～節度、節制～

1 本授業におけるポイント

- 導入の場面で、「時間」について自分なりの定義付けを行うことで、自らの価値観を確認するとともに、課題を主体的に捉えようとする意識を高める。
- 「自分の時間の使い方」と「一生に使う時間」を比較し、話し合い活動を通して客観的に捉えさせることで、時間の価値に気付かせる。
- 「時間を大切にすることは自分の命を大切にすること」という日野原重明さんのメッセージから、望ましい生活習慣を身に付けることが自らの人生を豊かにするものであることを自覚できるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 時間は〇〇〇「(資料名) 日野原重明『いのちのおはなし』」

2 ねらい

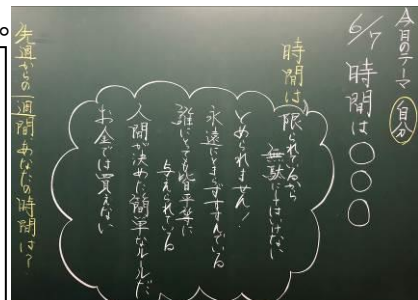
自分の時間の使い方を振り返り、望ましい生活習慣が人生を豊かにすることを自覚することで、自らの生活を正し、充実させていこうとする態度を育む。

3 展開

(1) 導入 「時間」についての定義づけを行う。

教師：(4つの視点[自分・みんな・社会・いのち]のなかから) 今日、学習するテーマは「自分」です。そのなかでも、特に「時間」について考えましょう。今のあなたにとって「時間」とはどんなものですか。「時間は……」に、どんな言葉が続くかを考えましょう。

生徒：(小グループで意見交換後、右の意見を表出)



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
自分なりの「時間」の定義付けを行うことを通して、課題を主体的に捉えさせる。「時間は大切にすべきだ、時間は守るべきものだ」という義務意識と生活実態とのずれに気付かせ、主題に対する意欲をさらに高める。

(2) 展開 自分の時間の使い方と一生に使う時間を比較して考える。

教師：(先週どのように時間を使ったのかを計算させた後、一生で使う時間の資料を配付) 自分の時間の使い方と、一生で使う時間を比較して、どんなことを感じましたか。

A児：1日で見ると数時間だけど、一生で考えると数十年も使っているのはすごいと思った。

B児：思ったより僕には時間がないと思った。やりたいことはたくさんあるのに、時間は限られているのだと改めて思った。

C児：必要最低限の時間だけで、人生の八分の三を占めていて、残りを無駄にはしたくないと思った。残りを八分の三に勝るような有意義なものにしたい。

A：一生で使う時間に驚く意見、B：限りある時間の価値に気づく意見、C：生き方につなげて考える意見

- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
「自分の時間の使い方」と「一生に使う時間」について比較し、話し合い活動を通して、客観的に自らの生活を振り返らせることで、限りある時間の価値に気付かせる。

(3) 終末 日野原重明さんの絵本「いのちのおはなし」のあとがきから、自らの生活習慣を振り返る。

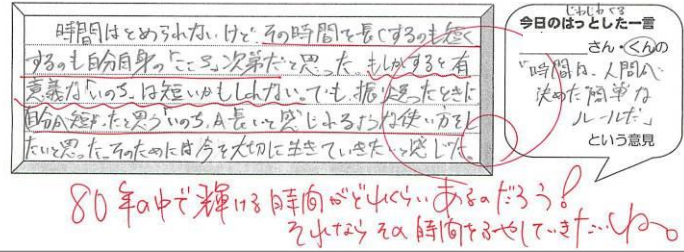
教師：「時間は……」に続く言葉を、日野原さんは「いのち」と続けています。日野原さんのメッセージを聞き、自分の時間の使い方について、考えたことや感じたことを振り返りましょう。

(「いのちのおはなし」あとがきの読み聞かせを行う)

生徒：(読み聞かせを聞いた後、振り返りを記入)

4. 『時間はいのち』 (日野原重明)

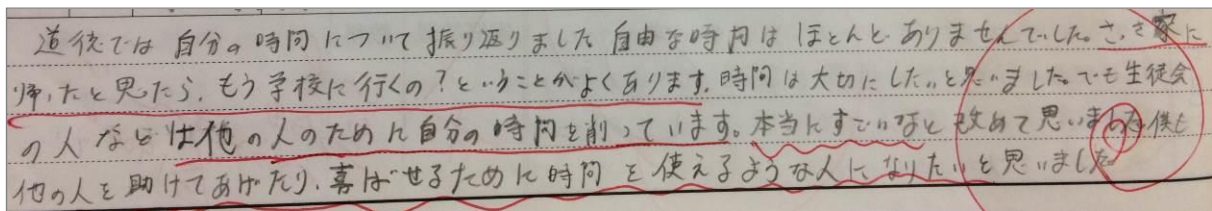
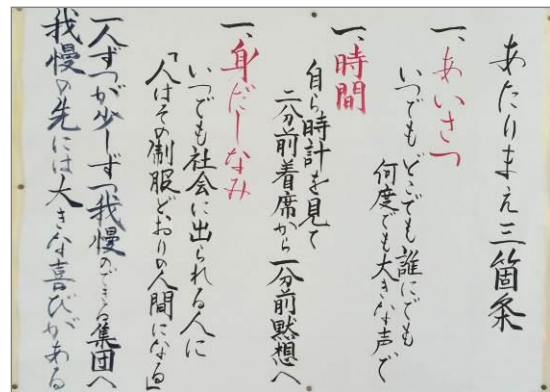
この時間を振り返って、自分の時間の使い方について、考えたことや感じたことをまとめよう。 ※ ちなみに、今日を含めて、卒業式まであと276日。登校する日はあと151日。



- 指導上の留意点・支援・「みんなちがってみんないい」活用のポイント等
絵本「いのちのおはなし」の後書きの読み聞かせを行い、「時間を大切にする＝自分の命を大切にすること」という日野原さんのメッセージを押さえる。その後、時間の使い方について、自身の生き方とつなげて再考させることを通して、望ましい生活習慣を身に付けようとする道徳的な態度につなげる。

3 実践を振り返って

本校3年生は、入学時から「あたりまえ三箇条(時間・あいさつ・身だしなみ)」を掲げ、望ましい生活習慣を身に付けるとともに、集団としての規範意識の向上をめざしてきた。3年生に進級して間もない時期に、改めて、自身の「時間の使い方」を振り返ったことで、自らの生活を再考する契機とすることができた。生徒の振り返りには、「日野原さんのように、『自分以外のことのために自分の時間を使う』人になりたい」という記述が多くみられ、単に日々の生活だけの課題ではなく、自らの生き方につなげて考える様子が感じ取れた。絵本ならではの平易な文章で表された、日野原さんの温かい言葉は、生徒の心に訴える力を強くもっていることを実感した。



また、本実践は、特別支援学級を含む3年生10クラスで実施した。授業を実施した感想からは、「7月に日野原さんが105歳で亡くなられたこともあり、タイムリーに感じる内容であった」「生徒達が『“時間はいのち”なんだと初めて考えられるようになった』と日記に綴っていた」「『時間を大切にすること＝命を大切にすること』という終末の話を生徒が納得しながら聞いていた」と、実践に手応えを感じた学級担任の様子うかがえた。今後も、週1回の道徳の時間を大切に、地道な取組を重ねることで、900名の全校生徒一人ひとりが自らを振り返り、仲間とともに変容していける時間をめざしたい。

道徳の時間で活用する ～よりよく生きる喜び～

1 本授業におけるポイント

- 人間は誰でも、目の前の欲望や誘惑に負け、易きに流されてしまう弱さや醜さをもっているが、一方でよりよく生きたい、よりよい人生を歩みたいという心をもち合わせていることに気付かせたい。
- 中学校3年生は、自分の進路に直面し、理想と現実のギャップに悩み、中には自暴自棄にある生徒も見られる時期である。だからこそ、自分の弱さや醜さと向き合い、それを克服していくことで誇りある生き方に近付けることに気付かせたい。
- 性格や生き方が異なる道信と智行が、ともに自分の弱さ醜さに苦しみながら、それを強さ気高さと乗り越えていこうとする姿が描かれている。そこで、二人の弱さ醜さと強さ気高さを捉えることで、ねらいに迫れる資料である。

2 授業の実際

1 主題名 弱さの克服

「(資料名)二人の弟子(出典:文部科学省『わたしたちの道徳』)」

2 ねらい

自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することで誇りある生き方に近付こうとする態度を育成する。

3 展開

(1) 導入 人間の心の中には「善玉」「悪玉」が混在することを確認する

教師：昨年度行った授業を振り返って、次の「心の善玉」「心の悪玉」に入る言葉を考えてみよう。

生徒の意見・考え

「心の善玉」とは…誠実、愚直さ、思いやり、感謝、自律、尊敬など
 「心の悪玉」とは…偏見、虚偽、強欲、高慢、差別、嫉妬、嫌悪など

□ 指導上の留意点・支援

人間は、善玉・悪玉を両方もち合わせており、善玉は気高く生きようとする強さに、一方悪玉は苦しいことから逃れようとする弱さ・醜さにつながることを伝え、本時のねらいにつなげるように工夫した。



文部科学省『心のノート』より

(2) 展開 題材の中の登場人物の確認とねらいに迫る主発問

教師：「道信」「智行」「上人」ってそれぞれどんな人物でしょうか。

□ 指導上の留意点・支援

智行が道信を許さないのは、智行の「心の悪玉」からくる感情だと推察する生徒もいることが予想されるが、次の主発問のためあまり深く触れない。それよりも上人の心の広さ、フキノトウを見て戻ってきた道信への高評価に気付かせたい。

教師：智行は上人から「智行よ、人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という言葉聞いた後、白百合を見て涙を流しますが、この涙は何に対する涙なのでしょうか。導入で考えた、心の善玉・悪玉の言葉を使って表してみよう。

□ 指導上の留意点・支援

導入の部分で示した「心の善玉」「心の悪玉」の中の言葉を使って考えさせることで、修行を貫き通した智行にも人間の醜さがあることに気付かせる。同時にそのことを受け入れ、乗り越えたときにはさらに誇りある生き方ができることを智行の生き方を通して確認し、自分の生き方について考えさせる。

生徒の意見・考え

- ・道信の生き方に対するねたみ
- ・道信の行動に対する嫉妬
- ・上人の言動に対する尊敬
- ・道信の生き方への偏見
- ・自分自身の高慢な心に対する嫌悪

(3) 終末 意見の共有と本時の学び

教師：ここで地元の「大内人形」を作り続けた富田潤二さんについて紹介したいと思います。(みんなちがってみんないい P73～76)

□ 指導上の留意点・支援

題材の中の登場人物の話だけに留まらず、身近に気高い人生を送っている人がいることを紹介することで、心がけ次第で誰でもより良い人生を送ることができることを確認し、これからの生き方に役立ててほしい。

教師：本校の中庭に、一本の白百合が咲いているのを知っていますか。用務員さんの方々のお陰で、いつも雑草は取り除かれています、その白百合だけは抜かれずに残っています。今、受験勉強や進路について悩んでいる人も多いと思いますが、美しい花を見ることで、少しだけ心に余裕をもち、自分自身と向き合う時間を作ってほしいと思います。

【授業後の生徒の感想】

どれだけ勉強や修行を努力してやり抜いても、自分自身を偽ったり、人をまねたりするだけでは人としての本当の成長はないだろうと思った。～中略～自分は本当はどう思っているのかを常に自問自答してみる。

今日の授業で思ったことは善悪です。誰の心の中にもある善悪、悪の心は自分の力で完全になくすことはできないけれど小さくすることはできることがわかりました。～中略～これからは悪の心をできる限りおさえ続けるようにしたいと思います。

～前略～人と関わり合うことは、「自分と向き合う」ことにもつながり、自分で正さなければならないこと、あるいは、信念を曲げないことなど、気付かされる機会が増えるきっかけにもなるのだと思います。「誰からも学ぶ」そんな謙虚な心の善玉を、いつまでも持ち続け、自分と向き合いたいです。

上人が智行に言った最後の言葉は私もその通りだと思いました。他人のことよりまずは、自分自身と向き合うことが大切だと思います。私は勉強に関しては自分にすごく甘いです。受験まであと100日を切りました。最後は後悔はしたくないのでがんばろうと思います。

3 評価について

授業での観察や発表・授業後の感想はもちろん、本時で学んだ感想や意見を教室に掲示し、互いの意見を知らせる。また、今年度、道徳の時間で学んだことや考えたことを振り返るために、題材と内容項目を掲示する。



4 実践を振り返って

道徳の授業では、いつもともに学ぶ姿勢で取り組んでいる。また、授業後は生徒の感想を学級通信で保護者に伝えたり、学級掲示をしたりして、生徒自身が学んだこと・考えたことを振り返ることができるように努めている。さらに、重点的に取り組みたい内容項目によっては2週連続で行うことで、生徒の中に残るように実施している。特別の教科「道徳」の実施に向けて、現在取り組んでいることを整理し、学校生活全体を通して、社会が求める人間づくりに励んでいきたいと考える。